

科目名		舞台演技実習Ⅰ			
担当教員	矢頭 勲		実務授業の有無	○	
対象学科	声優アクターズ科 声優アーティストコース	対象学年	1	開講時期	前期・後期
必修・選択	必修	単位数	一	単位時間数	34時間
授業概要、目的、 授業の進め方	1. 舞台演技基礎の習得 2. 基礎的な演技メソッドの理解 3. 台詞表現と体表現への取り組み				
学習目標 (到達目標)	台本を読み、場における動きや伝えたいことの意味、登場人物の役割を理解できること				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料	練習用台本を必要に応じてコピーし配布				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	舞台演劇基礎 1 立ち姿勢		トレーニングの重要性と素立ち 発声の仕方		
2	舞台演劇基礎 2 反応と表現		目線や仕草に対して無意識下での反応について 呼吸法に対する意識		
3	舞台演劇基礎 3 台詞について		言葉の意味、伝えたい事を意識してみる 気持ちの持ち方・考え方		
4	舞台演劇基礎 4 芝居の空間		場面、設定の理解と人物の行動理解		
5	舞台演劇基礎 5 相手役を考える		自分に向けて話す相手の台詞から自分の役柄を見つける。		
6	舞台演劇基礎 6 会話劇		二人以上のシーンを演じてみる。 お互いの表現について考える。		
7	舞台演劇基礎 7 客席との距離		見せ方の工夫。声量について 距離感や想像力について		
8	舞台演劇基礎 8 ミザンス		立ち位置の取り方について シーンでの見せ方		
9	演技発表 1		一人5分程度の演技発表会		
10	演技実習 1 姿勢や発声が必要な体について		基本的なトレーニングのおさらい		
11	演技実習 2 反射と影響		台詞や表情・仕草から相手の意識を感じ取り、それに反応 してみる。		
12	演技実習 3 伝え方の工夫		声や身体両方をしっかりと使ってみる。 擬音…声、台詞…体表現と日常の音を逆転させてみる。		
13	演技実習 4 台詞のキャッチボール		二人一組で、古今東西ゲームをテニス形式(エア)で行っ てみる。		
14	演技実習 5 台本を理解し、物語のテーマを考える		演じる世界を理解し、登場人物だからこそ見える世界を感じ とり、表現してみる。		
15	演技実習 6 集団表現		舞台でのアンサンブルを意識し、適切な立ち位置と複数人 による台詞のタイミングを考えてみる。		
16	演技実習 7 自然な演技		オーバーラップや無反応、集団と個人など、打ち合わせの 無い状態での集団表現		
17	演技発表 2		グループ(3~5人)での発表会		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
定期試験40%、レポート25%、実技試験25%、学習意欲10%  成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・ D評価を不可とする。			様々な台本を使い、時間ごとにテーマを探り、表現の世界を色々 な角度で感じ取ってください。決して、授業がすべてでない表現 の世界であるとともに、先人たちが記した表現について理解する ことの大切さも学んでほしいと思います。		
実務経験教員の経歴	舞台演劇活動歴30年以上、 舞台演出・舞台監督・演技指導歴15年				

科目名	演劇トレーニングⅠ				
担当教員	安川 嘉文		実務授業の有無	○	
対象学科	声優アクターズ科 声優アーティストコース	対象学年	1	開講時期	前期・後期
必修・選択	必修	単位数	一	単位時間数	34時間
授業概要、目的、授業の進め方	1. 演技者のための基本トレーニング法 2. 演技をするための発声・身体感覚の習得 3. 身体のケア・自己管理能力の習得				
学習目標 (到達目標)	自分の身体に興味を持ち、客観的に見つめながら開発できる。また、自身でケアを行いながら積極的に表現にかかわっていくことができる。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	特になし。				
回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考			
1	身体トレーニング1	イントロダクション・トレーニングの重要性			
2	身体トレーニング2	ストレッチ・リズム運動			
3	身体トレーニング3	ストレッチ・リズム運動・呼吸法			
4	身体トレーニング4	ストレッチ・リズム運動・呼吸法・筋力トレーニング			
5	身体トレーニング5	ストレッチ・リズム運動・呼吸法・筋力トレーニング・発声・リセット			
6	身体トレーニング6	ストレッチ・リズム運動・呼吸法・筋力トレーニング・発声・リセット			
7	身体トレーニング7	ストレッチ・リズム運動・呼吸法・筋力トレーニング・発声・リセット			
8	身体トレーニング8	ストレッチ・リズム運動・呼吸法・筋力トレーニング・発声・リセット			
9	身体トレーニング9	ストレッチ・リズム運動・呼吸法・筋力トレーニング・発声・リセット			
10	演技トレーニング1	ストレッチ・リズム運動・呼吸法・筋力トレーニング・発声・演技を伴う発声トレーニング・リセット			
11	演技トレーニング2	ストレッチ・リズム運動・呼吸法・筋力トレーニング・発声・演技を伴う発声トレーニング・リセット			
12	演技トレーニング3	ストレッチ・リズム運動・呼吸法・筋力トレーニング・発声・演技を伴う発声トレーニング・リセット			
13	演技トレーニング4	ストレッチ・リズム運動・呼吸法・筋力トレーニング・発声・演技を伴う発声トレーニング・リセット			
14	演技トレーニング5	ストレッチ・リズム運動・呼吸法・筋力トレーニング・発声・演技を伴う発声トレーニング・リセット			
15	演技トレーニング6	ストレッチ・リズム運動・呼吸法・筋力トレーニング・発声・演技を伴う発声トレーニング・リセット			
16	演技トレーニング7	ストレッチ・リズム運動・呼吸法・筋力トレーニング・発声・演技を伴う発声トレーニング・リセット			
17	テスト	テスト(身体チェック・自己管理能力・メンタルケア能力)			
評価方法・成績評価基準		履修上の注意			
定期試験40%、レポート25%、実技試験25%、学習意欲10%  成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。		出席は大前提。積極性、参加意欲を重視します。 表現者としてやっていく上での体づくり、声づくりの素地を形成するつもりで臨んでほしい。日常のコンディションキープと常時最低限のパフォーマンスを発揮できる自己管理能力を維持する意思を自覚すること。			
実務経験教員の経歴	芸能活動15年以上、専門学校にて演技指導歴6年				

②

国際映像メディア専門学校 シラバス

科目名	滑舌 I				
担当教員	岡田 花菜子		実務授業の有無	○	
対象学科	声優アクターズ科 声優アーティストコース	対象学年	1	開講時期	前期・後期
必修・選択	必修	単位数	一	単位時間数	34時間
授業概要、目的、 授業の進め方	1. 正しい呼吸法・発声法を身につける。 2. クリアな発音・滑舌を身につける。 3. 無声化・鼻濁音・舌の使い方などを確認し、身につける。				
学習目標 (到達目標)	1. 声優・俳優としての発声を身につける。2. 声優・俳優として必要な滑舌を身につける。3. 無声化・鼻濁音・舌の使い方などを確認し、美しい日本語を話せる力をつける。				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料	NHK放送文化研究所編 NHK日本語発音アクセント辞典 講談社 「魅せる声」のつくり方				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	日本語アクセント辞典 滑舌・アクセントについて説明		日本語発音アクセント辞典の使い方確認		
2	腹式呼吸 声帯ストレッチ		実習		
3	腹式呼吸 声帯ストレッチ 母音の無声化		実習		
4	腹式呼吸 声帯ストレッチ 母音の無声化		実習		
5	腹式呼吸 声帯ストレッチ 鼻濁音		実習		
6	腹式呼吸 声帯ストレッチ 鼻濁音		実習		
7	腹式呼吸 声帯ストレッチ 外郎売		実習。外郎売のアクセント、読み方確認。		
8	腹式呼吸 声帯ストレッチ 外郎売		実習。外郎売練習。復習必須。		
9	テスト		実技テスト		
10	発声 外郎売		実習。外郎売チェック。		
11	発声 滑舌課題文練習		実習。滑舌課題文を練習。復習箇所もチェック。		
12	発声 滑舌課題文練習		実習。滑舌課題文を練習。復習箇所もチェック。		
13	発声 滑舌課題文練習		実習。滑舌課題文を練習。復習箇所もチェック。		
14	発声 滑舌課題文練習		実習。滑舌課題文を練習。復習箇所もチェック。		
15	発声 滑舌課題文練習		実習。滑舌課題文を練習。復習箇所もチェック。		
16	発声 滑舌課題文練習		実習。滑舌課題文を練習。復習箇所もチェック。		
17	テスト		実技テスト		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
試験(発表)40%、基礎力30%、学習意欲30%  成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D 評価を不可とする。			声優・俳優の基礎となる発声・滑舌などの力を身につける。 やり方は教室で指導できるが、継続しなければ意味はない。 そのためにも、特に復習が重要である。		
実務経験教員の経歴	アナウンサー、司会者として20年以上経歴を積む				

②

国際映像メディア専門学校 シラバス

科目名	ヴォーカルトレーニングⅠ				
担当教員	鎌倉 亜子		実務授業の有無	○	
対象学科	声優アクターズ科 声優アーティストコース	対象学年	1	開講時期	前期・後期
必修・選択	必修	単位数	一	単位時間数	34時間
授業概要、目的、授業の進め方	1. 基本の発声法 2. リズム感、音程の安定 3. 洋楽の発音、発声法				
学習目標 (到達目標)	歌う筋肉の強化、音を聞く耳の強化、コーラス				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	歌詞などプリント配布				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	基礎発声（腹式呼吸等）		基本の発声を身に付ける		
2	Mixボイス方法		Mixvo.の響きの確認		
3	鼻腔の共鳴		ハミングで鼻腔の響きの確認		
4	喉の柔軟性		声門の開閉運動		
5	高域の拡大		様々フレーズで発音		
6	ボイスチェンジ法		胸声区から中声区、頭声区へ変化		
7	リズムトレーニング		ハンドクラップで表現		
8	音程トレーニング		様々インターバル使用し発声		
9	洋楽の発声法		正しい英語発音を身に付ける		
10	コーラスの強化		ハモリの耳をきたえる		
11	課題曲歌唱 Ⅰ		合唱曲（課題曲 その1）歌唱チェック		
12	課題曲歌唱 Ⅰ		合唱曲（課題曲 その1）歌唱チェック		
13	課題曲歌唱 Ⅱ		合唱曲（課題曲 その2）歌唱チェック		
14	課題曲歌唱 Ⅱ		合唱曲（課題曲 その2）歌唱チェック		
15	課題曲歌唱 Ⅲ		合唱曲（課題曲 その3）歌唱チェック		
16	課題曲歌唱 Ⅲ		合唱曲（課題曲 その3）歌唱チェック		
17	試験		課題歌唱曲に対する評価		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
試験50%、課題曲歌唱評価30%、学習意欲20%  成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。			積極的に自主トレーニングを行うこと。 試験用課題曲は事前に歌詞を配布します。歌詞は試験までに覚えて下さい。		
実務経験教員の経歴	ミュージシャンとして活動しながらヴォーカル講師歴15年				

②

国際映像メディア専門学校 シラバス

科目名	音楽基礎理論					
担当教員	鎌倉 亜子		実務授業の有無	○		
対象学科	声優アクターズ科 声優アーティストコース		対象学年	1	開講時期	前期・後期
必修・選択	必修	単位数	一	単位時間数	17時間	
授業概要、目的、 授業の進め方	1. 楽典の知識（基礎） 2. 譜面の書き方、読み方 3. 実際に鍵盤に触れさせ確認					
学習目標 (到達目標)	楽典の知識を身に付ける					
テキスト・教材・参 考図書・その他資料	配布プリント					
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考			
1	イントロダクション		音楽理論とは			
2	C△mスケールとその種類、音符の種類 I		5線譜使用スケールの書き込み			
3	C△mスケールとその種類、音符の種類 II		5線譜使用スケールの書き込み			
4	コードの種類、鍵盤にて確認 I		コードを覚える			
5	コードの種類、鍵盤にて確認 II		コードを覚える			
6	転回形（コード） I		タブレット、鍵盤で実際に弾く			
7	転回形（コード） II		タブレット、鍵盤で実際に弾く（繰り返し練習）			
8	転回形（コード） III		タブレット、鍵盤で実際に弾く（繰り返し練習）			
9	前期試験					
10	7thコードの種類 I		7thコードを覚える			
11	7thコードの種類 II		7thコードを覚える（前回授業の復習）			
12	譜面の書き方 I		決まりを覚える			
13	譜面の書き方 II		課題に対するフィードバック			
14	譜面の書き方 III		課題に対するフィードバック			
15	簡単な作曲 I		曲作りの基本知識			
16	簡単な作曲 II		課題に対するフィードバック			
17	簡単な作曲 III		課題に対するフィードバック			
評価方法・成績評価基準			履修上の注意			
前期試験40%、課題40%、学習意欲20%  成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D 評価を不可とする。			自主的に鍵盤トレーニングを行って下さい。			
実務経験教員の経歴	ミュージシャンとして活動しながらヴォーカル講師歴15年					

②

国際映像メディア専門学校 シラバス

科目名	音楽基礎理論					
担当教員	鎌倉 亜子		実務授業の有無	○		
対象学科	声優アクターズ科 声優アーティストコース		対象学年	2	開講時期	前期・後期
必修・選択	必修	単位数	一	単位時間数	17時間	
授業概要、目的、授業の進め方	1. 楽典の知識（基礎・応用） 2. 音程、調、音階の種類 3. 譜面を書き弾く					
学習目標 (到達目標)	2年生は今年から楽典を始めるので1年生同様、楽典知識の理解					
テキスト・教材・参考図書・その他資料	プリント配布					
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考			
1	イントロダクション		楽典について			
2	C△mスケールとその種類		5線譜にスケールの記入			
3	インターバルと度、音符の種類 I		音の幅、呼び方の知識			
4	インターバルと度、音符の種類 II		音の幅、呼び方の知識			
5	コードの種類 I		コードを鍵盤で確認			
6	コードの種類 II		コードを鍵盤で確認			
7	7thコードの種類 I		7thコードを覚える			
8	7thコードの種類 II		7thコードを覚える（課題提出）			
9	前期試験					
10	前期の振り返り		音の幅、呼び方の知識・7thコード			
11	コードの転回形 I		タブレット、鍵盤で確認			
12	コードの転回形 II		タブレット、鍵盤で確認			
13	譜面の書き方 I		決まりを覚える			
14	譜面の書き方 II		決まりを覚える			
15	簡単な作曲 I		曲の作り方の基礎			
16	簡単な作曲 II		曲の作り方の基礎（課題提出）			
17	後期試験					
評価方法・成績評価基準			履修上の注意			
前期試験30%、後期試験30%、課題20%、授業態度20%  成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。			前期・後期終了時に課題の提出があります。			
実務経験教員の経歴	ミュージシャンとして活動しながらヴォーカル講師歴15年					

②

国際映像メディア専門学校 シラバス

科目名	HIP HOP I				
担当教員	MIE (中野 美恵)		実務授業の有無	○	
対象学科	声優アクターズ科 声優アーティストコース	対象学年	1	開講時期	前期・後期
必修・選択	必修	単位数	一	単位時間数	34時間
授業概要、目的、授業の進め方	1. 正しい姿勢、舞台上で動ける身体、体力をつける。 2. リズム感を身につける。 3. テーマを持ち、課題曲の振りをマスターする。				
学習目標 (到達目標)	1. 振付られた課題を練習し、踊ることができる。 2. 個々の表現を入れながら、課題曲を踊ることができる。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	なし				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	ストレッチ		基本的なストレッチ。体のパーツを動かし確認。		
2	ストレッチ、アイソレーション、リズムトレーニング		アイソレーション。首・胸・腰・膝・足首と、上から下へ行う。		
3	ストレッチ、アイソレーション、リズムトレーニング、ステップ		アイソレーション。リズムをとりながらステップ。		
4	ストレッチ、アイソレーション、リズムトレーニング、ステップ		ステップ、ボディコントロールできるための練習。		
5	ストレッチ、アイソレーション、リズムトレーニング、振り入れ		ビッチが早すぎない課題曲から練習。基本的動きを確認。		
6	ストレッチ、アイソレーション、リズムトレーニング、振り入れ		リズムキープ、体を大きく使えるような振りを加えた練習。		
7	ストレッチ、アイソレーション、リズムトレーニング、振り入れ		グループ練習。動きの確認。		
8	ストレッチ、アイソレーション、リズムトレーニング、振り入れ		グループ練習。動きの確認。		
9	テスト		グループ発表。		
10	ストレッチ、アイソレーション、リズムトレーニング、ステップ		前期の復習		
11	ストレッチ、アイソレーション、リズムトレーニング、振り入れ		アップテンポの曲(A)の課題。新しい振り付け。		
12	ストレッチ、アイソレーション、リズムトレーニング、振り入れ		アップテンポの曲(A)振付の続き。		
13	ストレッチ、アイソレーション、リズムトレーニング、振り入れ		アップテンポの曲(A)振付の続き。フォーメーション。		
14	ストレッチ、アイソレーション、リズムトレーニング、振り入れ		アップテンポの曲(A)振付の続き。フォーメーション。		
15	ストレッチ、アイソレーション、リズムトレーニング、振り入れ		アップテンポの曲(A)練習。表情、リズム確認。		
16	ストレッチ、アイソレーション、リズムトレーニング、振り入れ		アップテンポの曲(A)練習。表情、リズム確認。		
17	テスト		総まとめ		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
試験(発表)30%、基礎力30%、学習意欲20%、積極性20%  成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。			進行状況に合わせてながら振付も変えていく。身体的リズム感を養うためには自主練習も必要。発表のタイミングを設け、精度を高めていく予定。		
実務経験教員の経歴	HipHopダンサーとして15年以上活躍。アイドルの振付も行う。				

科目名	声乐Ⅰ				
担当教員	西潟 明美		実務授業の有無	○	
対象学科	声優アクターズ科 声優アーティストコース	対象学年	1	開講時期	前期・後期
必修・選択	必修	単位数	一	単位時間数	17時間
授業概要、目的、授業の進め方	1. テキストを元に声乐の基礎を身につける。 2. 正しい音程を身につける。 3. ミュージカル対応もできるよう、楽曲を用い指導する。				
学習目標 (到達目標)	1. 声乐の基礎を身につける。 2. 正しい音程を身につける。 3. 音域を広げる。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	音楽之友社 コールユーブンゲン全曲 全音楽譜出版社 コンコーネ50番中声用				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	声乐のためのストレッチと呼吸 テキスト解説		歌うための身体の準備の仕方、呼吸法を覚える。		
2	声乐のためのストレッチと呼吸 母音と子音の発音		歌うための声の出し方の基礎、口の開け方など修得。		
3	発声 コールユーブンゲン コンコーネ		コールユーブンゲンNo3 a/c、コンコーネNo.2 練習。		
4	発声 コールユーブンゲン コンコーネ		コールユーブンゲンNo3 a/c No4a/c、コンコーネNo.2 練習。		
5	発声 コールユーブンゲン コンコーネ 校歌		コールユーブンゲンNo4 No6、コンコーネNo.2 校歌練習。		
6	発声 コールユーブンゲン コンコーネ 校歌		コールユーブンゲンNo4 No8、コンコーネNo.3 校歌練習。		
7	発声 コールユーブンゲン コンコーネ 校歌		コールユーブンゲンNo6 No8 No10、コンコーネNo.3 校歌練習。		
8	発声 コールユーブンゲン コンコーネ 校歌		コールユーブンゲンNo10 No11、コンコーネNo.3 校歌練習。		
9	テスト		コールユーブンゲン、コンコーネからのテスト。		
10	1学期の復習 コールユーブンゲン コンコーネ		1学期の復習。 コールユーブンゲンNo13、コンコーネNo.4 練習。		
11	発声 コールユーブンゲン コンコーネ		コールユーブンゲンNo13、コンコーネNo.4 練習。		
12	発声 コールユーブンゲン コンコーネ		コールユーブンゲンNo15、コンコーネNo.4 練習。		
13	発声 コールユーブンゲン コンコーネ		コールユーブンゲンNo15、コンコーネNo.4 練習。		
14	発声 コールユーブンゲン コンコーネ		コールユーブンゲンNo15 No17、コンコーネNo.4通し練習。		
15	発声 コールユーブンゲン コンコーネ ミュージカル楽曲		コールユーブンゲンNo17 No18、コンコーネNo.7 ミュージカル楽曲A練習。		
16	発声 コールユーブンゲン コンコーネ ミュージカル楽曲		コールユーブンゲンNo17 No18、コンコーネNo.7 ミュージカル楽曲A練習。		
17	テスト		ミュージカル楽曲Aテスト。		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
試験(発表)30%、基礎力30%、学習意欲20%、積極性20%  成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。			日常から発声を鍛え、音程を正す意識が必要。 声優・俳優もミュージカルに進出することも多くなってきた。 それを意識しつつ学んでいかせる。		
実務経験教員の経歴	声乐指導、ミュージカル歌唱指導者として、30年以上の経験を持つ				

②

国際映像メディア専門学校 シラバス

科目名	アニソン実技				
担当教員	緒形 奈美		実務授業の有無	○	
対象学科	声優アクターズ科 声優アーティストコース	対象学年	1	開講時期	前期・後期
必修・選択	必修	単位数	一	単位時間数	26時間
授業概要、目的、 授業の進め方	1. 声量を上げる 2. やる気みなぎる表情ができる 3. 発声基礎がしっかりできる				
学習目標 (到達目標)	覇気ある人間になる。 人に感じてもらえる歌唱。				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料	発声CD、カラオケ音源				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	自己紹介、発声基礎、アンケート		ステージ・マイク使用法		
2	発声50音、自由曲1コーラスチェック		keyチェック		
3	自由曲 1コーラス		人に向かって歌う		
4	自由曲 2コーラス		指摘された所が直せる		
5	自由曲 フルコーラス まとめ		指摘された所が直せる		
6	自由曲 発表		ステージ上で発表形式		
7	課題曲① 盛り上がるアニメソング		歌入れ		
8	課題曲② 盛り上がるアニメソング		1人ずつ歌唱		
9	課題曲③ 盛り上がるアニメソング 発表		ステージ上で発表形式		
10	課題曲① 懐かしのアニメソング		歌入れ		
11	課題曲② 懐かしのアニメソング		1人ずつ歌唱		
12	課題曲③ 懐かしのアニメソング		1人ずつ歌唱		
13	課題曲④ 懐かしのアニメソング 発表		ステージ上で発表形式		
14	オーディション曲①		オーディション用選曲&歌唱		
15	オーディション曲②		1人ずつ歌唱		
16	オーディション曲③		1人ずつ歌唱		
17	オーディション曲④		1人ずつ歌唱		
18	ミニライブ開催(発表会)		ステージ上で発表形式		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
定期試験40%、レポート25%、実技試験25%、学習意欲10%  成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D 評価を不可とする。			一生懸命であるか、羞恥心がないか		
実務経験教員の経歴	高校卒業後歌手活動、ボイストレーナー歴15年				

②

国際映像メディア専門学校 シラバス

科目名	アニソン実技				
担当教員	緒形 奈美		実務授業の有無	○	
対象学科	声優アクターズ科 声優アーティストコース	対象学年	2	開講時期	前期・後期
必修・選択	必修	単位数	一	単位時間数	26時間
授業概要、目的、授業の進め方	1. 基礎発声を正確に 2. 自由曲（個性を伸ばす） 3. 課題曲（求められた事ができる）				
学習目標 (到達目標)	自分の声を知り、個性として自信を持って歌える事。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	発声CD、カラオケ音源				
回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考			
1	自己紹介、発声基礎、アンケート	ステージ・マイク使用法			
2	発声50音、自由曲1コーラスチェック	滑舌、表現力			
3	自由曲 2コーラス	指摘された所が直せる			
4	自由曲 2コーラス フルコーラス	指摘された所が直せる			
5	自由曲 フルコーラス まとめ	曲構成を考える			
6	自由曲 発表	ステージ上で発表形式			
7	課題曲① 懐かしのアニメソング	歌入れ			
8	課題曲② 懐かしのアニメソング	1人ずつ歌唱			
9	課題曲③ 懐かしのアニメソング 発表	ステージ上で発表形式			
10	セリフのある曲①	歌入れ			
11	セリフのある曲②	1人ずつ歌唱			
12	セリフのある曲③	1人ずつ歌唱			
13	セリフのある曲④	ステージ上で発表形式			
14	オーディション曲①	オーディション用選曲&歌唱			
15	オーディション曲②	1人ずつ歌唱			
16	オーディション曲③	1人ずつ歌唱			
17	オーディション曲④	1人ずつ歌唱			
18	ミニライブ開催（発表会）	ステージ上で発表形式			
評価方法・成績評価基準		履修上の注意			
定期試験40%、レポート25%、実技試験25%、学習意欲10%  成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。		自分なりに努力、成長が見られるか。 勇気と希望を与えられるアニソンが歌えるか。			
実務経験教員の経歴	高校卒業後歌手活動、ボイストレーナー歴15年				

科目名		コミュニケーション検定			
担当教員		矢頭 勲		実務授業の有無	
対象学科		対象学年		×	
必修・選択		単位数		単位時間数	
授業概要、目的、授業の進め方		1. 聞く・話すを円滑に行う知識の習得 2. 敬語（丁寧語・謙譲語・尊敬語）を理解する 3. 場に応じた正しい対応力を社会人の仕事の例を使い理解する。			
学習目標 (到達目標)		社会人に向けてのコミュニケーション能力の必要性を理解し、仕事などの場で、人間関係を構築出来る知識を得る。			
テキスト・教材・参考図書・その他資料		参考書「サーティファイ主催 コミュニケーション能力検定初級」（問題集含む）			
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考	
1	コミュニケーションとは？			P2 コミュニケーションの必要性を考える	
2	聞く力			P6～P9 目的に即して聞く	
3	聞く力			P10～P14 傾聴・質問する	
4	話す力			P15～P17 目的を意識する	
5	話す力			P18～P22 話を組み立てる	
6	話す力			P23～P29 言葉を選び抜く	
7	話す力			P30～P35 表現・伝達する	
8	実践基礎1			P36～P39 来客対応	
9	実践基礎2			P40～P43 電話対応	
10	実践基礎3			P44～P48 アポイントメント・訪問・挨拶	
11	実践基礎4			P49～P54 情報共有の重要性	
12	実践基礎5			P55～P59 チーム・コミュニケーション	
13	実践応用1			P60～P65 接客・営業	
14	実践応用2			P66～P71 クレーム対応	
15	実践応用3			P72～P77 会議・取材・ヒヤリング	
16	実践応用4			P78～P83 面接	
17	問題演習			P84～P89 模擬問題	
評価方法・成績評価基準				履修上の注意	
定期試験40%、レポート25%、実技試験25%、学習意欲10%  成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。				授業では、教科書にない事例も使います。また、特に必要と感じたコミュニケーションの話も交えながら進めて行くことで、より身近なこととして必要性を感じながら履修してください。	
実務経験教員の経歴		コミュニケーション検定授業歴15年の教員			

②

国際映像メディア専門学校 シラバス

科目名	声優基礎				
担当教員	プロダクション所属の声優	実務授業の有無	○		
対象学科	声優アクターズ科 声優アーティストコース	対象学年	1	開講時期	前期・後期
必修・選択	必修	単位数	一	単位時間数	51時間
授業概要、目的、授業の進め方	1. プロ声優による実技指導。 2. アフレコ、ドラマCDの演技などを学ぶ。 3. 声優としての意識を修得する。				
学習目標 (到達目標)	1. 声優としての基礎を身につける。 2. キャラクターや状況に合わせた演技ができる。 3. マイクワークを身につける。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	講師作成資料				
回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考			
1	自己紹介 発声 滑舌	オーディション必須の自己紹介から開始。発声・滑舌練習の初歩的指導。			
2	発声 滑舌 距離感	台本による距離感の指導。			
3	言葉と表現	1つのワードで様々な表現練習。			
4	台詞と状況	台本の台詞から状況をくみ取りながら話す。相手に合わせて台詞を伝える。			
5	台詞と掛け合い	二人ずつの台詞の掛け合いと自分の感情の変化。			
6	ドラマCD	台本の読み方、キャラクターの演技方を確認しつつ練習。			
7	ドラマCD	マイクワークを加えての練習。			
8	ドラマCD	リハーサル。			
9	ドラマCD	収録。			
10	アニメアフレコA	台本の見方確認。練習。			
11	アニメアフレコA	キャラクターの動きや表情を確認して演じる。			
12	アニメアフレコA	マイクワークを加えての練習。			
13	アニメアフレコA	最終練習。(テスト)			
14	外画アニメアフレコB	Vチェック。外画作品の収録の違いを説明。練習。			
15	外画アニメアフレコB	原音を聞きながら練習。			
16	外画アニメアフレコB	役決め。原音を聞きながら練習。			
17	外画アニメアフレコB	最終練習。(テスト)			
評価方法・成績評価基準		履修上の注意			
試験(発表)40%、基礎力30%、学習意欲30%  成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。		声優としての基礎力を磨く。 授業で学べることはやり方であって、積み重ねが必要。日々、自主的に意識し練習することによって成長につながる。			
実務経験教員の経歴	各講師によりキャリアが違うが、プロダクション所属の現役声優による授業				

科目名	ナレーション実習Ⅰ				
担当教員	白根 美弥子		実務授業の有無	○	
対象学科	声優アクターズ科 声優アーティストコース	対象学年	1	開講時期	前期・後期
必修・選択	必修	単位数	一	単位時間数	25時間
授業概要、目的、 授業の進め方	1. 15秒TVCMナレーションの基本を理解する。 2. ラジオCMナレーションの基本を理解する。 3. 実習しながら、現場で通用するナレーション力を身につける。				
学習目標 (到達目標)	1. 15秒のCMで伝えられる効果的なナレーション力を身につける。2. TVより長めのラジオCMナレーション。掛け合いも身につける。3. 臨機応変に現場で対応できる力を身につける。				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料	講師作成資料				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	ボイスチェック 滑舌チェック		自分の声の音量と滑舌をチェック。自分の名前を明確に伝えることができるか。		
2	CM ナレーション		明るく元気なナレーション練習。滑舌・イントネーションチェック		
3	CM ナレーション		ナレーションの基本について説明し練習する。滑舌・イントネーションチェック		
4	CM ナレーション		ナレーションの基本練習。ハッキリ、キレイに話すことを第一目的に練習。		
5	CM キャラクター		CMの中のキャラクター演技を学ぶ。(元気)		
6	CM キャラクター		CMの中のキャラクター演技を学ぶ。(おっとり)		
7	CM キャラクター		CMの中のキャラクター演技を学ぶ。(力強い)		
8	テスト		課題テストと指導。		
9	掛け合いナレーション		2人掛け合いによるナレーションを練習。		
10	CM ナレーション		しっかりとしたナレーションを練習。(金融関係)		
11	CM ナレーション		しっかりとしたナレーションの復習。(金融関係)		
12	掛け合いナレーション		キャラクター同士の掛け合いによるナレーション練習。		
13	掛け合いナレーション		キャラクター同士の掛け合いによるナレーション練習。		
14	VP ナレーション		VPナレーション練習。(店舗プロモーション用)		
15	VP ナレーション		VPナレーション練習。(商品紹介用)		
16	ラジオCM ナレーション		3人の掛け合いナレーション練習。		
17	ラジオCM ナレーション		3人の掛け合いナレーション練習。		
18	テスト		課題テストと指導。		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
試験(発表)40%、基礎力30%、学習意欲30%  成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。			発声・滑舌などの基礎を磨きつつ、ナレーションでの表現力を磨く。一口にナレーションと言っても、種類・イメージは様々。それぞれの現場に対応できるよう意識し練習をしてもらう。		
実務経験教員の経歴	ナレーター、CM制作スタッフとして、20年以上CM制作に携わってきた。				

科目名	Word検定				
担当教員	荒川 美和		実務授業の有無	×	
対象学科	声優アクターズ科 声優アーティストコース	対象学年	1	開講時期	前期・後期
必修・選択	必修	単位数	一	単位時間数	54時間
授業概要、目的、授業の進め方	1. パソコン操作の基本を学ぶ。 2. 編集機能、罫線機能、図形機能を中心にWordの基本操作を習得する。 3. 前期はテキストを中心に基礎を学び、後期は問題集を繰り返し解き認定試験合格を目指す。				
学習目標 (到達目標)	Word文書処理技能認定試験3級合格を目標とする。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	ウィネット Word2010クイックマスター(基本編) サータィファイ Word文書処理技能認定試験3級問題集(2010対応)				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	Wordの基本		Wordの起動・画面構成、ヘルプの使い方既存の文書を開く、画面の操作・表示モード、Wordの終了 P2~22		
2	文字の入力と編集の基本操作		新規文書の作成、日本語入力システム、文字の入力と変換、単語の登録、文書の保存、文字の選択、文字列の編集とコピー・移動 P24~52		
3	文書の編集		ページ・文字の書式設定、文字幅と文字間隔の設定、文字列の配置、字下げと行間の設定、禁則処理、罫線と網かけ P54~84		
4	文書の印刷		改ページの挿入、ヘッダーとフッターの設定、印刷イメージの確認、印刷の実行 P86~98		
5	文書の作成		入力フォーマット、段落番号の書式設定、箇条書きの設定、タブ、インデント、クリックアンドタイプ、ビジネス文書の作成例 P102~132		
6	表を使った文書の作成		表の作成、表の選択方法、表の編集、表の装飾、文字列から表を作成する P137~165		
7	図形や画像を使った文書の作成		図形の作成、図形の編集、画像の挿入、横書きテキストボックスの挿入、ワードアートの挿入 P171~208		
8	総合学習問題		総合学習問題 P210~215		
9	試験対策		練習問題1~2 問題集P2~16		
10	試験対策		練習問題3~4 問題集P17~29		
11	試験対策		練習問題5~6 問題集P30~44		
12	試験対策		練習問題7~8 問題集P45~59		
13	試験対策		模擬問題1 問題集P76~83		
14	試験対策		模擬問題2 問題集P84~91		
15	試験対策		模擬問題3 問題集P92~99		
16	試験対策		模擬問題4 問題集P100~106		
17	試験対策		模擬問題5 問題集P107~113		
18	試験対策		模擬問題6 問題集P114~121		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
検定合格40%、模擬試験30%、確認テスト20%、学習意欲10%  成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。			出席日数および授業態度次第では検定受験不可とする。検定合格を目指すことはもちろんですが、芸能ビジネスでは重要な知識となるので、しっかりと理解に努めること。		
実務経験教員の経歴					

科目名	Excel検定				
担当教員	荒川 美和		実務授業の有無	×	
対象学科	声優アクターズ科 声優アーティストコース	対象学年	2	開講時期	前期・後期
必修・選択	必修	単位数	一	単位時間数	54時間
授業概要、目的、 授業の進め方	1. これまで学んだパソコン操作の復習をしながら授業を進めていく。 2. ワークシートの作成、グラフ、データベース機能を中心に基礎的なExcel活用技術を習得する。 3. 前期はテキストを中心に基礎を学び、後期は問題集を繰り返し解き認定試験合格を目指す。				
学習目標 (到達目標)	Excel表計算処理技能認定試験3級合格を目標とする。				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料	ウィネット Excel2010クイックマスター(基本編) サータィファイ Excel表計算処理技能認定試験3級問題集(2010対応)				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	Excelの基本		Excelの起動・画面構成、ヘルプの使い方、既存ブックを開く、画面の操作、セルの選択、Excelの終了 P2~22		
2	データの編集		新規ブックの作成、データの入力、数式の入力、データの移動とコピー、ブックの保存 P24~56		
3	表の編集		罫線の設定、セルの書式設定、セルの配置、表示形式の設定、列幅や行の高さの調整、行や列の挿入と削除 P60~82		
4	ブックの印刷		表示モードの切り替え、ページ設定の変更、印刷の実行、印刷範囲の設定 P84~100		
5	グラフと図形の作成		グラフの作成、図形の作成 P104~132		
6	ブックの利用と管理		ワークシートの管理、ウィンドウの操作 P136~147		
7	関数		統計関数、数学/三角関数、論理関数、日付関数 P152~182		
8	データベース機能		リストの作成、並べ替え、条件にあったデータの抽出、小計の挿入 P184~202		
9	総合学習問題		総合学習問題 P204~207		
10	試験対策		練習問題1~2 問題集P2~11		
11	試験対策		練習問題3~4 問題集P12~21		
12	試験対策		練習問題5~6 問題集P22~32		
13	試験対策		練習問題7~8 問題集P33~41		
14	試験対策		模擬問題1 問題集P54~58		
15	試験対策		模擬問題2 問題集P59~62		
16	試験対策		模擬問題3 問題集P63~67		
17	試験対策		模擬問題4 問題集P68~72		
18	試験対策		模擬問題5 問題集P73~77		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
検定合格40%、模擬試験30%、確認テスト20%、学習意欲10%  成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。			出席日数および授業態度次第では検定受験不可とする。検定合格を目指すことはもちろんですが、芸能ビジネスでは重要な知識となるので、しっかりと理解に努めること。		
実務経験教員の経歴					

科目名	映像舞台制作実習					
担当教員	朝倉隆司		実務授業の有無	○		
対象学科	声優アクターズ科 声優アーティストコース		対象学年	1	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位数	—	単位時間数	114時間	
授業概要、目的、 授業の進め方	1. 19日×6コマ 2. 舞台制作プロセスと本番の経験 3. 各自、これまで学んだことを基本に企画から本番までを実施					
学習目標 (到達目標)	前期授業の集大成としてのアニソンライブ公演の準備・練習・公演					
テキスト・教材・参 考図書・その他資料	舞台制作に関する必要物（台本その他）の配布					
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考			
1	企画立案		テーマ・コンセプト・内容・スケジュール作成			
2	企画書作成		立案での決定事項をもとに企画書作成			
3	ステージ構成および内容		演出的なアイデアの出し合い			
4	セットリスト作成		楽曲リスト作成（内容への落とし込み）			
5	セットリスト作成（直し）		楽曲リスト作成（内容への落とし込み）			
6	歌唱練習		衣装作り・ステージング			
7	歌唱練習					
8	歌唱練習					
9	歌唱練習					
10	歌唱練習					
11	歌唱練習					
12	歌唱練習					
13	歌唱練習					
14	ステージごとの稽古		演出および入りハケの練習			
15	ステージごとの稽古		演出および入りハケの練習			
16	通し稽古		衣装あり・音響・照明あり			
17	通し稽古		衣装あり・音響・照明あり			
18	ゲネラルプローベ					
19	本番					
評価方法・成績評価基準			履修上の注意			
評価50%、制作過程での進捗状況20%、学習意欲30%  成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。			観客を入れての本番になります。授業の一環というよりプロ意識を持って臨んで下さい。			
実務経験教員の経歴	放送・音楽業界の現場に7年、専門学校にて23年の指導、MBAホルダー					



科目名	社会人常識マナー検定				
担当教員	鈴木 則子		実務授業の有無	×	
対象学科	声優アクターズ科 声優アーティストコース	対象学年	1	開講時期	前期・後期
必修・選択	必修	単位数	一	単位時間数	17時間
授業概要、目的、授業の進め方	1. 社会人、組織の一員として必要不可欠な社会常識を理解する。 2. 人として必要な知識やビジネスマナーを修得する。 3. 良好な人間関係を築くためのコミュニケーション能力を修得する。				
学習目標 (到達目標)	1.社会常識を理解する。2.ビジネス計算力を身につける。3.立居振舞い、言葉遣いなどを身につける。4.ビジネスマナーの基礎を理解する。5.社会人常識マナー検定3級合格を目指す。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	公益社団法人 全国経理教育協会 社会人常識マナー検定テキスト2・3級 公益社団法人 全国経理教育協会 社会人常識マナー検定第21回～第28回過去問題集3級				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	社会人常識マナー検定試験について 社会と組織1		社会人としての自覚やキャリア、会社組織について。テキストP1～20		
2	社会と組織2		組織と役割、社会変化とその対応。テキストP22～32		
3	仕事と組織		目標の重要性、主体性と組織運営。テキストP34～54		
4	一般常識1		社会常識の基礎用語。漢字など。テキストP56～70		
5	一般常識2		社会常識の基礎用語。用語など。テキストP70～86		
6	ビジネスコミュニケーション 言葉遣い		人間関係とコミュニケーション。敬語と話し方。テキストP102～144		
7	ビジネス文書		ビジネス文書の特徴。社内文書。テキストP146～156		
8	ビジネスマナー		組織の一員としてのマナー。来客対応。テキストP176～196		
9	定期試験		テストと解説。		
10	電話対応		電話対応の重要性。電話の受け方、掛け方の心得。テキストP202～214		
11	交際業務		慶事・弔辞のマナー。テキストP128～238		
12	文書類の受け取りと発送		受発信文書の取り扱い。オフィス環境。テキストP242～249		
13	計算		ビジネスにおける計算。数式。テキストP90～99		
14	日本		都道府県名・県庁所在地・各県の特徴など。		
15	検定対策①		過去問題の解説、確認。		
16	検定対策②		過去問題の解説、確認。		
17	検定対策③		過去問題の解説、確認。		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
定期試験40%、レポート25%、実技試験25%、学習意欲10%  成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。			社会人として必要なマナーや知識を修得。検定合格は勿論のこと、社会への意識を高めさせたい。		
実務経験教員の経歴	専門学校教員として19年間、学生の育成に従事。				

科目名		舞台演技実習Ⅱ			
担当教員	矢頭 勲		実務授業の有無	○	
対象学科	声優アクターズ科 声優アーティストコース	対象学年	2	開講時期	前期・後期
必修・選択	必修	単位数	一	単位時間数	34時間
授業概要、目的、 授業の進め方	1. 舞台俳優に必要な身体を身に付ける 2. 演技メソッドの理解と実践 3. リアリズム演劇を理解する				
学習目標 (到達目標)	現実的な表現と非現実的な表現について理解できる。また、演出家が求める演技について考え、対応し順応できる。				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料	練習用台本を必要に応じてコピーし配布				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	俳優演技の基礎1 体の使い方		トレーニングの重要性の確認 発声・滑舌などの訓練について		
2	俳優演技の基礎2 表情を鍛える		日常的な場面でも、表情は動いています。台詞理解とともに、目線や仕草も無意識に反応しています。		
3	俳優演技の基礎3 呼吸法に対する意識		気持ちの持ち方で行動に差が出ます。ため息や笑い方など、いろいろな呼吸の仕方があります。		
4	俳優演技の基礎4 シチュエーション		場面設定の理解と人物像から行動やセリフの言い方を試してみる。		
5	俳優演技の基礎5 感情表現について		感情の出し方より先に、感情の生まれ方を考える。自分に向けて話す相手の台詞から自分が反応していることを理解する。		
6	俳優演技の基礎6 喜怒哀楽と老若男女		感情表現に年齢設定や性別、擬人化などを加えてみる。		
7	俳優演技の基礎7 アンサンブル稽古		集団による歌のシーンやダンスシーンについて		
8	俳優演技の基礎8 コロス		集団演技について		
9	演技発表1		コロスもしくは、複数人による演技 5分程度の演技発表会		
10	演技実習1 姿勢や発声で必要な体について		基本的なトレーニングのおさらい		
11	演技実習2 反射と影響		台詞や表情・仕草から相手の意識を感じ取り、それに反応してみる。		
12	演技実習3 インプロ1		反射や影響から心に生じる変化を自然体として受け止め、行動へと進めてみる。		
13	演技実習4 インプロ2		シチュエーションだけを与え、個人の記憶から発想される行動や変化を楽しみながら表現してみる		
14	演技実習5 エチュード1		場所や場面、人物の性格だけを決め、役者のみでストーリーをその場で繋いでみる。		
15	演技実習6 エチュード2		前回、行ったエチュードと同じシチュエーションで行ってみる。新しい発見や表現を感じてみよう。		
16	演技実習7 エチュード3		エチュードから生まれたシーンを台本化してみる。		
17	演技発表2		グループ(6~10人)での発表会(エチュード)		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
定期試験40%、レポート25%、実技試験25%、学習意欲10%  成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。			様々な台本を使い、時間ごとにテーマを探り、表現の世界を色々な角度で感じ取ってください。決して、授業がすべてでない表現の世界であるとともに、先人たちが記した表現について理解することの大切さも学んでほしいと思います。		
実務経験教員の経歴	舞台演劇活動歴30年以上、 舞台演出・舞台監督・演技指導歴15年				

科目名	演劇トレーニングⅡ				
担当教員	安川 嘉文		実務授業の有無	○	
対象学科	声優アクターズ科 声優アーティストコース	対象学年	2	開講時期	前期・後期
必修・選択	必修	単位数	一	単位時間数	34時間
授業概要、目的、授業の進め方	1. 役者の仕事を理解し、演技することができる 2. 戯曲を読解し、演技につなぐことができる 3. 役へのアプローチを多角的にできる				
学習目標 (到達目標)	役者とは、演技とは何かを常に追求する頭を獲得し、戯曲やシナリオを役者の観点から読解することができるようになる。多角的な役へのアプローチを実践し、現場で必要とされる演技力を獲得する。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	その場に応じて教材・テキストを用意。				
回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考			
1	役者とは・演技とは	役者とは何か、演技とは何かを考察する。演技者の為のイントロダクション			
2	セリフと間	セリフと間を実際に演じてみるエクササイズ			
3	演技で空気をつくる	演技で空気をつくるエクササイズ			
4	戯曲の読み方	役者としての戯曲の読み方・分析			
5	セリフ演技について	セリフ演技についての説明・実践			
6	戯曲への演技アプローチ1	戯曲の解釈から演技に繋げる実習			
7	戯曲への演技アプローチ2	戯曲の解釈から演技に繋げる実習			
8	戯曲への演技アプローチ3	戯曲の解釈から演技に繋げる実習			
9	テスト発表				
10	ドラマのための即興演技1	1人での即興トレーニング			
11	ドラマのための即興演技2	2人組での即興トレーニング			
12	ドラマのための即興演技3	グループでの即興トレーニング			
13	ドラマのための即興演技4	戯曲を使った即興トレーニング			
14	ドラマのための即興演技5	戯曲を使った即興トレーニング			
15	ドラマのための即興演技6	戯曲を使った即興トレーニング			
16	ドラマのための即興演技7	戯曲を使った即興トレーニング			
17	テスト発表				
評価方法・成績評価基準		履修上の注意			
定期試験40%、レポート25%、実技試験25%、学習意欲10%  成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。		出席は大前提。積極性、参加意欲を重視します。 役者としての自分と真摯に向き合う姿勢と、演劇に対する好奇心、演技力向上に対するモチベーションを保つこと。			
実務経験教員の経歴	芸能活動15年以上、専門学校にて演技指導歴6年				

②

国際映像メディア専門学校 シラバス

科目名	ヴォーカルトレーニングⅡ				
担当教員	鎌倉 亜子		実務授業の有無	○	
対象学科	声優アクターズ科 声優アーティストコース	対象学年	2	開講時期	前期・後期
必修・選択	必修	単位数	一	単位時間数	34時間
授業概要、目的、授業の進め方	1. 基本発声の定着 2. 音域の拡大 3. リズム感、音程、ハモリの耳の強化				
学習目標 (到達目標)	抜力した上で声量上げる、洋楽ゴスペル曲（4声）の完成				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	歌詞などプリント配布				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	基礎発声		リップ、タンゴロールで抜力させる		
2	Mixvo.の定着		やわらかい響き作り		
3	口・鼻・喉の共鳴		それぞれの違いの確認		
4	Middlevo.の強化		閉鎖筋の強化		
5	リズムトレーニング&音程		音程発声にリズムを追加		
6	ゴスペル4声パート練習		パートごとの安定		
7	ゴスペル4声5曲完成		発表の場を設け、達成感を味わう		
8	課題曲練習		ゴスペル歌唱チェック		
9	課題曲練習		ゴスペル歌唱チェック		
10	課題曲歌唱Ⅰ		ゴスペル（課題曲 その1）歌唱チェック		
11	課題曲歌唱Ⅰ		ゴスペル（課題曲 その1）歌唱チェック		
12	課題曲歌唱Ⅱ		ゴスペル（課題曲 その2）歌唱チェック		
13	課題曲歌唱Ⅱ		ゴスペル（課題曲 その2）歌唱チェック		
14	課題曲歌唱Ⅲ		ゴスペル（課題曲 その3）歌唱チェック		
15	課題曲歌唱Ⅲ		ゴスペル（課題曲 その3）歌唱チェック		
16	試験用課題曲レッスン		歌唱チェック		
17	試験		課題歌唱曲に対する評価		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
試験50%、課題曲歌唱評価30%、学習意欲20%  成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。			積極的に自主トレーニングを行うこと。 試験用課題曲は事前に歌詞を配布します。歌詞は試験までに覚えて下さい。		
実務経験教員の経歴	ミュージシャンとして活動しながらヴォーカル講師歴15年				

科目名	声乐Ⅱ				
担当教員	西潟 明美		実務授業の有無	○	
対象学科	声優アクターズ科 声優アーティストコース	対象学年	2	開講時期	前期・後期
必修・選択	必修	単位数	一	単位時間数	17時間
授業概要、目的、授業の進め方	1. テキストを元に声乐の基礎から応用を身につける。 2. 正しい音程、合唱でも他に惑わされない音程を身につける。 3. ミュージカル対応もできるよう、楽曲を用い指導する。				
学習目標 (到達目標)	1. 声乐の基礎から応用を身につける。 2. 正しい音程を身につける。 3. 音域を広げる。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	音楽之友社 コールユーブンゲン全曲 全音楽譜出版社 コンコーネ50番中声用				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	発声 コールユーブンゲン コンコーネ		コールユーブンゲン コンコーネ 1年次の復習。		
2	発声 コールユーブンゲン コンコーネ		コールユーブンゲン コンコーネ 1年次の復習。		
3	発声 コールユーブンゲン コンコーネ		コールユーブンゲンNo18、コンコーネNo.8 練習。		
4	発声 コールユーブンゲン コンコーネ		コールユーブンゲンNo18、コンコーネNo.8 練習。		
5	発声 コールユーブンゲン コンコーネ ミュージカル楽曲		コールユーブンゲンNo18、コンコーネNo.8 ミュージカル楽曲B練習。		
6	発声 コールユーブンゲン コンコーネ ミュージカル楽曲		コールユーブンゲンNo18、コンコーネNo.8 ミュージカル楽曲B練習。		
7	発声 コールユーブンゲン コンコーネ ミュージカル楽曲		コールユーブンゲンNo18、コンコーネNo.8 ミュージカル楽曲B練習。		
8	発声 コールユーブンゲン コンコーネ ミュージカル楽曲		コールユーブンゲンNo18、コンコーネNo.8 ミュージカル楽曲B練習。		
9	テスト		ミュージカル楽曲Bテスト。		
10	身体レッスンとチェック コンコーネ		歌唱と目について確認。コンコーネNo.8 No9		
11	体勢チェック コールユーブンゲン コンコーネ		コールユーブンゲンNo18、コンコーネNo.10 練習。		
12	発声 コールユーブンゲン コンコーネ		コールユーブンゲンNo20 No21、コンコーネNo.10 練習。		
13	発声 コールユーブンゲン コンコーネ		コールユーブンゲンNo21b/e、コンコーネNo.11 練習。		
14	発声 コールユーブンゲン コンコーネ ミュージカル楽曲		コールユーブンゲンNo22e、コンコーネNo.17 ミュージカル楽曲C練習。		
15	発声 コールユーブンゲン コンコーネ ミュージカル楽曲		コールユーブンゲンNo22e、コンコーネNo.17 ミュージカル楽曲C練習。		
16	発声 ミュージカル楽曲		ミュージカル楽曲C練習。		
17	テスト		ミュージカル楽曲Cテスト。		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
試験(発表)30%、基礎力30%、学習意欲20%、積極性20%  成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D 評価を不可とする。			日常から発声を鍛え、音程を正す意識が必要。 声優・俳優もミュージカルに進出することも多くなってきた。 それを意識しつつ学んでいかせる。		
実務経験教員の経歴	声乐指導、ミュージカル歌唱指導者として、30年以上の経験を持つ				

②

国際映像メディア専門学校 シラバス

科目名	滑舌Ⅱ				
担当教員	関根 美紀		実務授業の有無	○	
対象学科	声優アクターズ科 声優アーティストコース	対象学年	2	開講時期	前期・後期
必修・選択	必修	単位数	一	単位時間数	34時間
授業概要、目的、 授業の進め方	1. 正しい呼吸法・発声法を身につける。 2. クリアな発音・滑舌を身につける。 3. 無声化・鼻濁音・舌の使い方などを確認し、身につける。				
学習目標 (到達目標)	1. 声優・俳優としての発声を身につける。2. 声優・俳優として必要な滑舌を身につける。3. 無声化・鼻濁音・舌の使い方などを確認し、美しい日本語を話せる力をつける。				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料	NHK放送文化研究所編 NHK日本語発音アクセント辞典 講談社 「魅せる声」のつくり方				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	発声 滑舌練習		1年次の振り返り。復習練習。		
2	腹式呼吸確認 声帯ストレッチ 滑舌練習		1年次の振り返り。尾高から平板読み練習。		
3	腹式呼吸確認 声帯ストレッチ 滑舌練習		高感度の良い読み方、フラットな読み方の練習。		
4	腹式呼吸確認 声帯ストレッチ 滑舌練習		前回までの復習と再修正。		
5	腹式呼吸確認 声帯ストレッチ 音域		基礎練習。音域を広げる練習。		
6	腹式呼吸確認 声帯ストレッチ 音域		基礎練習。音域を広げる練習。		
7	腹式呼吸確認 声帯ストレッチ 課題文練習		同じ文章で抑揚を変えて練習。ストレートに読む練習。		
8	腹式呼吸確認 声帯ストレッチ 課題文練習		テスト課題練習。		
9	テスト		実技テスト		
10	基礎練習 滑舌練習		やや長めの滑舌文を正しく読む練習。		
11	基礎練習 滑舌練習		やや長めの滑舌文を正しく早く読む練習。		
12	基礎練習 滑舌練習		やや長めの滑舌文を表現を加えて読む練習。		
13	基礎練習 滑舌長文練習		長めの滑舌文をクリアに読む練習。敬語多めの文章。		
14	基礎練習 滑舌長文練習		長めの滑舌文をクリアに読む練習。無声化確認。		
15	基礎練習 滑舌長文練習		長めの滑舌文をクリアに読む練習。ブレス調節。		
16	基礎練習 滑舌長文練習		長めの滑舌文をクリアに読む練習。テスト課題練習。		
17	テスト		実技テスト		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
試験(発表)40%、基礎力30%、学習意欲30%  成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D 評価を不可とする。			声優・俳優の基礎となる発声・滑舌などの力を身につける。 やり方は教室で指導できるが、継続しなければ意味はない。 そのためにも、特に復習が重要である。		
実務経験教員の経歴	アナウンサー、司会者として20年以上経歴を積む				

②

国際映像メディア専門学校 シラバス

科目名	声優実技				
担当教員	プロダクション所属の声優	実務授業の有無	○		
対象学科	声優アクターズ科 声優アーティストコース	対象学年	2	開講時期	前期・後期
必修・選択	必修	単位数	一	単位時間数	51時間
授業概要、目的、 授業の進め方	1. プロ声優による実技指導。 2. アフレコ、ドラマCDの演技などを学ぶ。 3. 声優としての意識を修得する。				
学習目標 (到達目標)	1. 声優としての基礎を身につける。 2. キャラクターや状況に合わせた演技ができる。 3. マイクワークを身につける。				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料	講師作成資料				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	アニメアフレコC		キャラクターの動きや表情を確認して演じる。		
2	アニメアフレコC		マイクワークを加えての練習。		
3	アニメアフレコC		マイクワークを加えての練習。		
4	アニメアフレコC		最終練習。(テスト)		
5	アフレコの現場 プロダクションについて		講義。今後の各自の進路研究につなげる。		
6	ボイスドラマA		キャラクターの心情、繊細な表現を意識。練習。		
7	ボイスドラマA		マイクワークを加えての練習。		
8	ボイスドラマA		リハーサル。		
9	ボイスドラマA		最終練習。(テスト)		
10	外画吹替え実習		映像と台本のチェック。		
11	外画吹替え実習		吹替え練習		
12	外画吹替え実習		吹替え練習		
13	外画吹替え実習		最終練習。(テスト)		
14	ボイスドラマB		キャラクターの心情、繊細な表現を意識。練習。		
15	ボイスドラマB		マイクワークを加えての練習。		
16	ボイスドラマB		リハーサル。		
17	ボイスドラマB		最終練習。(テスト)		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
試験(発表)40%、基礎力30%、学習意欲30%  成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D 評価を不可とする。			声優としての実力を磨く。 授業で学べることはやり方であって、積み重ねが必要。日々、自 主的に意識し練習することによって成長につながる。		
実務経験教員の経歴	各講師によりキャリアが違うが、プロダクション所属の現役声優による授業				

科目名	異文化研究				
担当教員	安川嘉文		実務授業の有無	×	
対象学科	声優アクターズ科 声優アーティストコース	対象学年	4	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数	—	単位時間数	38時間
授業概要、目的、 授業の進め方	1. 19×2コマ 2. 提携大学：台南芸術大学での授業受講 3. (台湾) 海外の文化・流行・生活を体験することで異文化を学ぶ				
学習目標 (到達目標)	海外の映像・アニメなどの知識習得				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料	資料など配布				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	異文化研修について		異文化研修についてのイントロダクション		
2	台湾講座 1		台湾基礎知識 (民族・言語・国土面積・通貨・気候等)		
3	台湾講座 2		台湾基礎知識 (芸能・文化・慣習・教育等)		
4	台湾講座 3		現地旅行会社のガイドとスカイプで中国語講座		
5	異文化芸術鑑賞		台湾制作、または台湾を題材、テーマにした映像作品を鑑賞		
6	海外研修旅行準備		海外渡航における注意点・準備物について		
7	海外研修旅行準備		自由行動計画を立てる		
8	海外研修旅行準備		自由行動計画を立てる提出・現地課題の配布		
9	海外研修旅行準備		海外研修旅行説明会 (持ち物・服装・行程などの最終ガイダンス)		
10	台湾：異文化研修				
11					
12					
13					
14					
15					
16					
17					
18					
19					
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
評価50%、制作過程での進捗状況20%、学習意欲30%  成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。			観客を入れての上映会になります。授業の一環というよりプロ意識を持って臨んで下さい。		
実務経験教員の経歴	芸能活動15年以上、専門学校にて演技指導歴6年、海外研修担当4年				

科目名	卒業進級制作実習				
担当教員	朝倉隆司		実務授業の有無	○	
対象学科	声優アクターズ科 声優アーティストコース	対象学年	1	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数	—	単位時間数	120時間
授業概要、目的、 授業の進め方	1. 20日×6コマ 2. 制作プロセスの経験と発表 3. 各自、これまで学んだことを基本に企画から本番までを実施				
学習目標 (到達目標)	前期授業の集大成としてのアニソンライブ公演の準備・練習・公演				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料	舞台制作に関する必要物（台本その他）の配布				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	企画立案		テーマ・コンセプト・内容・スケジュール作成		
2	企画書作成		立案での決定事項をもとに企画書作成		
3	ステージ構成および内容		演出的なアイデアの出し合い		
4	セットリスト作成		楽曲リスト作成（内容への落とし込み）		
5	セットリスト作成（直し）		楽曲リスト作成（内容への落とし込み）		
6	歌唱練習		衣装作り・ステージング		
7	歌唱練習				
8	歌唱練習				
9	歌唱練習				
10	歌唱練習				
11	歌唱練習				
12	歌唱練習				
13	歌唱練習				
14	ステージごとの稽古		演出および入りハケの練習		
15	ステージごとの稽古		演出および入りハケの練習		
16	通し稽古		衣装あり・音響・照明あり		
17	通し稽古		衣装あり・音響・照明あり		
18	通し稽古		衣装あり・音響・照明あり		
19	ゲネラルプローベ				
20	本番		評価		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
評価50%、制作過程での進捗状況20%、学習意欲30%  成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。			進級評価の対象となります。		
実務経験教員の経歴	放送・音楽業界の現場に7年、専門学校にて23年の指導、MBAホルダー				

科目名		卒業進級制作実習			
担当教員	朝倉隆司		実務授業の有無	○	
対象学科	声優アクターズ科 声優アーティストコース	対象学年	2	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数	—	単位時間数	120時間
授業概要、目的、 授業の進め方	1. 20日×6コマ 2. 制作プロセスの経験と発表 3. 各自、これまで学んだことを基本に企画から本番までを実施				
学習目標 (到達目標)	前期授業の集大成としてのアニソンライブ公演の準備・練習・公演				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料	舞台制作に関する必要物（台本その他）の配布				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	企画立案		テーマ・コンセプト・内容・スケジュール作成		
2	企画書作成		立案での決定事項をもとに企画書作成		
3	ステージ構成および内容		演出的なアイデアの出し合い		
4	セットリスト作成		楽曲リスト作成（内容への落とし込み）		
5	セットリスト作成（直し）		楽曲リスト作成（内容への落とし込み）		
6	歌唱練習		衣装作り・ステージング		
7	歌唱練習				
8	歌唱練習				
9	歌唱練習				
10	歌唱練習				
11	歌唱練習				
12	歌唱練習				
13	歌唱練習				
14	ステージごとの稽古		演出および入りハケの練習		
15	ステージごとの稽古		演出および入りハケの練習		
16	通し稽古		衣装あり・音響・照明あり		
17	通し稽古		衣装あり・音響・照明あり		
18	通し稽古		衣装あり・音響・照明あり		
19	ゲネラルプローベ				
20	本番		評価		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
評価50%、制作過程での進捗状況20%、学習意欲30%  成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。			卒業評価の対象となります。		
実務経験教員の経歴	放送・音楽業界の現場に7年、専門学校にて23年の指導、MBAホルダー				

②

国際映像メディア専門学校 シラバス

科目名	楽曲プロデュース基礎				
担当教員	富田 一輝		実務授業の有無	○	
対象学科	声優アクターズ科 声優アーティストコース	対象学年	2	開講時期	前期・後期
必修・選択	必修	単位数	一	単位時間数	34時間
授業概要、目的、授業の進め方	1. 作詞を中心とし、プロデュースについて学ぶ。 2. GarageBandを使用し、自分の声を録音することで客観的に評価する。 3. 自分自身で制作することにより、言葉一つ一つの重みを理解する。				
学習目標 (到達目標)	1.自分の声を録音することができる。 2.テーマに沿った歌詞を書く事が出来る。 3.作品、アーティストのイメージの構築方法が理解出来る。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	適宜プリントにて対応。				
回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考			
1	オリエンテーション	自己紹介、授業目標の説明、データ共有方法の説明。			
2	CMソングについて、ガレージバンドの操作について。	実習（青森リンゴテーマソング制作）。プリント配布。			
3	メジャー調ロック	実習（夢についての歌詞制作）。プリント配布。			
4	マイナー調ロック	実習（テーマ約束）。プリント配布。			
5	王道アニソン	実習（テーマワンピース）。プリント配布。			
6	王道バラード	実習（テーマハナミズキ）。プリント配布。			
7	コライト（共作）	実習（グループを組んで制作）。プリント配布。			
8	前期まとめ	前期の振り返り			
9	J POP	実習（テーマ夏の終わり）。プリント配布。			
10	K POP	実習（テーマ訳詞）。プリント配布。			
11	コミックソング	実習（テーマツイッター）。プリント配布。			
12	プロデュース（ミュージックレイン）	実習（テーマTry sail）。プリント配布。			
13	プロデュース（ミュージックレイン）	実習（テーマ雨宮天）。プリント配布。			
14	プロデュース（ミュージックレイン）	実習（テーマ麻倉もも）。プリント配布。			
15	プロデュース（ミュージックレイン）	実習（テーマ夏川椎菜）。プリント配布。			
16	メジャー調ロック	実習（同じテーマ夢についての歌詞制作）。プリント配布。			
17	1年間のまとめ	1年間の振り返り			
評価方法・成績評価基準		履修上の注意			
前期・後期において振り返りレポートの提出60%、学習意欲40%  成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。		オーディションへ提出する仮歌を収録することがあります。課題レポートの提出があります。			
実務経験教員の経歴	2019年4月アニメキラッとプリチャンED 作編曲、同4月Kore:ct「スタートボタン」オリコンウィークリー総合5位 他多数				

科目名	ボイスライブラリー制作				
担当教員	鈴木 則子		実務授業の有無	○	
対象学科	声優アクターズ科 声優アーティストコース	対象学年	1	開講時期	前期・後期
必修・選択	必修	単位数	一	単位時間数	26時間
授業概要、目的、授業の進め方	1. 仕事として現場から求められるナレーター・声優とは何かを習得する。 2. 原稿や宣材資料の作成などにより、自己プロデュース力を育成する。 3. ナレーション収録を行うことにより、技術向上と経験を習得する。				
学習目標 (到達目標)	1. ナレーション技術の向上。2. 文章作成力の向上。3. 一人ナレーションにおけるマイクワークを習得する。4. スタジオマナーの習得。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	講師作成資料				
回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考			
1	求められる人材とボイスライブラリーの意義	ボイスライブラリーの意義について説明 実際のナレーション確認			
2	ナレーション課題練習 1	ナレーション課題練習①「本来の声を活かす」			
3	ナレーション課題練習 2	ナレーション課題練習②「キャラクターを活かす」 ナレーション原稿作成について説明			
4	原稿作成 1	原稿作成について説明 ナレーション原稿作成スタート			
5	原稿作成 2	ナレーション原稿制作 選曲について説明 (BGM・SE探し開始)			
6	原稿チェックと選曲 1	ナレーション原稿チェック 選曲チェック (候補曲確認)			
7	原稿チェックと選曲 2	ナレーション原稿チェック 選曲チェック (候補曲確認)			
8	原稿チェックと選曲 3	ナレーション原稿チェック 選曲チェック (候補曲確認)			
9	ナレーション原稿決定 プロフィール制作 1	ナレーション原稿決定 宣材写真・衣装について説明			
10	収録用ナレーション練習 1	収録用ナレーション練習 1			
11	収録用ナレーション練習 2 プロフィール制作 2	収録用ナレーション練習 2 宣材写真衣装チェック			
12	収録用ナレーション練習 3	スタジオにてナレーション練習			
13	ナレーション仮収録	スタジオにてナレーション仮練習			
14	収録用ナレーション練習 4 プロフィール制作 3	仮収録における音声チェック プロフィール原稿作成について説明			
15	ナレーション本収録	ナレーション本収録			
16	宣材写真撮影	プロフィール宣材写真撮影			
17	プロフィール制作 4	プロフィール自己アピール文作成			
18	プロフィール制作 5	プロフィールデータの作成			
評価方法・成績評価基準		履修上の注意			
ナレーション実技30%、原稿作成25%、収録25%、学習意欲20%  成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。		発声・滑舌などの基礎力を活かしつつ、収録に臨む。基礎ができていなければ現場には行けないということをしかりと認識する。 自身の声を知り自身の声を活かし、また、現場が求めるナレーションとは何かを考察させる。			
実務経験教員の経歴	演技者・ナレーターとして10年以上経験を積む				

科目名	音楽ビジネス				
担当教員	朝倉 隆司		実務授業の有無	○	
対象学科	声優アクターズ科 声優アーティストコース	対象学年	1	開講時期	前期・後期
必修・選択	必修	単位数	一	単位時間数	25時間
授業概要、目的、授業の進め方	1. 音楽業界のしくみやビジネスの考え方を学習する。 2. 音楽業界で働くための基礎知識を育成する。 3. 音楽ビジネスの基本から将来展望まで幅広い知識を修得する。				
学習目標 (到達目標)	1.音楽業界に基本的仕組みや役割を理解している。2.音楽コンテンツを制作し、市場へ出す仕組みを理解している。3.音楽をビジネスとしてとらえることが出来る。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	プリント配布など				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	音楽業界の基本的しくみⅠ		プロダクション・レコード会社・音楽出版社の役割		
2	音楽業界の基本的しくみⅡ		ライブ・コンサートについて		
3	音楽業界の基本的しくみⅢ		テレビ・ラジオ・インターネットを使っでのプロモーション展開		
4	CD・DVDについて		レコード会社による音楽コンテンツの制作・宣伝・流通について		
5	アーティスト育成について		プロダクションによるアーティスト宣伝戦略		
6	アーティストグッズについて		コンサート物販におけるビジネス戦略		
7	楽曲（作詞）		60年代からの作詞推移と楽曲別作詞の特性		
8	楽曲（作曲）		90年代より変化した作曲法		
9	楽曲（編曲）		楽曲別アレンジポイントや実力派シンガーからアイドルまでの編曲特徴など。		
10	ファンクラブの役割		顧客管理およびマーケティングによるビジネス展開		
11	アーティストプロデュース 1		マーケティング・メディアへのアプローチ・コンテンツの差別化		
12	アーティストプロデュース 2		何が売れるかを考える（コンテンツ・パフォーマンス）		
13	アーティストに求められていること		センスを視覚化できる・流行を生み出す先見力・ブランドイメージ		
14	育成する力		誰を・誰に・何を・どこで・いつを明確化し、売る要素のあるキャラクター作りを行う。		
15	宣伝プロモート 1		知名度を上げることでブランド力がつく。知るきっかけを作る。		
16	宣伝プロモート 2（存在から特別へ）		競争優位性・ターゲットカスタマーにフォーカスする・出来るだけ5年単位で結果を求める。		
17	宣伝プロモート 3（ネットでのアプローチ）		youtube、ニコニコ動画・オビニオンリーダーによる公告展開		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
定期試験40%、レポート40%、学習意欲20%  成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。			音楽に関する雑学的要素も多々含まれるが、あくまでもビジネスの授業として受け取って欲しい。音楽は娯楽だが、プロとして必要なことは、それをいかにビジネスに置き換えることが出来るかが能力です。		
実務経験教員の経歴	放送・音楽業界の現場に7年、専門学校にて23年の指導、MBAホルダー				

科目名	音楽ビジネス				
担当教員	朝倉 隆司		実務授業の有無	○	
対象学科	声優アクターズ科 声優アーティストコース	対象学年	2	開講時期	前期・後期
必修・選択	必修	単位数	一	単位時間数	25時間
授業概要、目的、 授業の進め方	1. ケーススタディーの中心に音楽業界のビジネス戦略について講義を行う。 2. 音楽業界が実施したビジネス形態の基本を学ぶ。 3. 過去を学び未来展望を身に付ける。				
学習目標 (到達目標)	音楽ビジネスの基本的戦略を理解し、新しいビジネスセンスを身に付ける。				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料	こんなバンドがプロになれる！(音楽之友社・高垣健)、ヒットのツボ(日経BP出版センター・麻生香太郎)				
回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考			
1	オリジナリティを作る	音楽の差別化・本音を作詞で表現する・ファン作り P14～P24			
2	デビューに向けて	プロデューサーが求める音楽・デビューのポイント・実例 で見るデビュープロセス P27～P45			
3	デビュー後の現実	宣伝は雑誌から・プロとアマチュアは別物・クオリティー よりスピード P50～P73			
4	スタッフとの関係性	CD制作・マネジメントプロダクション・レコード会社・販 促スタッフ P77～P111			
5	契約について	契約期間・原盤権・アーティスト印税・援助金・契約金・ 著作権印税 P118～P132			
6	オーディション	オーディション審査・各社のケーススタディ(ヤマハ音楽 振興会・ビクター・ソニーなど) P142～P155			
7	プロになるための実践的アドバイス	売り込みの基本・デモテープに聞いてもらうには P171～P184			
8	プロデューサーが教える練習ポイント	レパートリーを増やす・リズム練習・ヴォーカルレッスン 法 P190～P195			
9	ドリカム400万枚への道	ブレイクポイント・ロンドンテストの起用・FM多局化・ キーワードは幸せ P9～P33			
10	プロデューサーの戦略(長戸大幸)	ビーイングの戦略 P36～P49			
11	プロデューサーの戦略(須藤晃)	ソニーレコードの戦略 P50～P60			
12	プロデューサーの戦略(田村充義)	ビクターの戦略 P61～69			
13	プロデューサーの戦略(木崎賢治)	WEAミュージックの戦略 P70～P73			
14	プロデューサーの戦略(小坂洋二)	EPICソニーの戦略 P74～P84			
15	プロデューサーの戦略(渡辺有三)	ポニーキャニオンの戦略 P85～P89			
16	レコード会社の研究	EPICソニーについて P91～P122			
17	レコード会社の研究	ファンハウスについて P123～P134			
評価方法・成績評価基準		履修上の注意			
定期試験40%、レポート40%、学習意欲20%  成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D 評価を不可とする。		配布資料が多くなります。各自でストック出来るフォルダーなど を用意して下さい。また、必要に応じてCD等の貸出を行います。 授業終了後に申し出て下さい。			
実務経験教員の経歴	放送・音楽業界の現場に7年、専門学校にて23年の指導、MBAホルダー				

科目名	アニソンライブ実技				
担当教員	朝倉 隆司		実務授業の有無	○	
対象学科	声優アクターズ科 声優アーティストコース	対象学年	1	開講時期	前期・後期
必修・選択	必修	単位数	一	単位時間数	17時間
授業概要、目的、授業の進め方	1. ライブハウスでの歌唱（ステージング能力）向上を目指す。 2. ライブハウスでの音楽活動のノウハウを学ぶ。 3. 歌唱・ステージングだけでなくライブハウスでの運営全般を学ぶ。				
学習目標 (到達目標)	年度末に自ら企画・制作・広報・運営・出演まで、自ら全てを実施出来ること。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	配布資料および歌詞ブック				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	音響機材について		マイク、マイクスタンド、PAセットの使い方		
2	ライブハウスについて		柳都オレンジスタジアムにおいて ライブハウス運営のノウハウを現場で学ぶ		
3	演出と選曲		30分の枠内で構成パターンについて学習（何を歌い、どんなトークで繋ぎ、どうやるか）。		
4	起承転結		課題曲3曲と2回のフリートークでライブ構成を作ってみる。		
5	ミニライブ Ⅰ		自身で選曲した曲2曲とトーク1回の構成でミニライブを実施する。		
6	広報と動員について（紙媒体・電波媒体・ネット媒体）		自身が開催するライブの宣伝方法を講義する。		
7	衣装について		ステージ栄えする、照明に合う衣装について。		
8	模擬リハーサル		本番同様にリハーサルの指導を行う。		
9	前期終了音楽ライブ実施		実習施設にてライブを開催する。また、ライブの完成度を評価とする。		
10	音楽ライブの企画立案		後期終了音楽ライブの企画立案計画の方法を講義する。		
11	歌唱指導		後期終了音楽ライブで歌唱する楽曲の歌唱指導。		
12	歌唱指導		後期終了音楽ライブで歌唱する楽曲の歌唱指導。		
13	MCトーク指導		後期終了音楽ライブでのフリートーク指導。		
14	台本・セットリストの作成		指導を加えながら台本の作成を行う。		
15	音楽ライブに向けてのリハーサル		リハーサル時に最終チェックを行う。		
16	後期終了音楽ライブ実施		実習施設にてライブを開催する。また、ライブの完成度を評価とする。		
17	評価審査		実施したライブ映像を見ながら評価を実施する。		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
最終審査40%、本番ライブ30%、企画書・台本20%、学習意欲10%  成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。			将来、音楽活動を行う上で重要な知識、技術、経験になります。 ライブを楽しむことは大切ですが、それ以上にライブのノウハウをしっかりと学んで下さい。		
実務経験教員の経歴	放送・音楽業界の現場に7年、専門学校にて23年の指導、MBAホルダー				

科目名	アニソンライブ実技				
担当教員	朝倉 隆司		実務授業の有無	○	
対象学科	声優アクターズ科 声優アーティストコース	対象学年	2	開講時期	前期・後期
必修・選択	必修	単位数	一	単位時間数	34時間
授業概要、目的、 授業の進め方	1. 音楽ライブ活動をビジネスとしてとらえ、より実践的な企画・運営・出演が出来る人材育成を行う。 2. 価値あるライブ活動が行い、セルフプロモーション能力を高める。 3. 実践的に模擬ライブを繰り返し行う。				
学習目標 (到達目標)	動員目標を明確にし(60名以上)、目標達成できる広報計画を実施し、観客の満足度を上げる演出力を育成する。なお、観客の満足度はアンケートにて評価する。				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料	配布資料など				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	ライブ企画		30分の音楽ライブに関する企画・立案方法を講義する。 ※ 次回までにA4レポート1枚で提出。		
2	ライブ企画 修正		提出されたレポートから良し悪しを抽出する。 ※ 次回までに完成した企画書を提出。		
3	企画から台本へ		提出された企画書を台本へ落とし込む。		
4	リハーサルステージ		台本をもとに、個々の30分音楽ステージを実施する。		
5	リハーサルステージ 修正		前回ステージでの改善点を修正し、問題があれば、新たに指摘する(よりクオリティを向上する)。		
6	広報・動員について		音楽ライブの広報展開および動員計画について講義を行う。		
7	広報・動員コンテンツの作成		フライヤー、ポスター、Web広報のデザイン、情報、公開時期などを講義、ラフ作成を行う。		
8	前期終了音楽ライブのリハーサル		内容的クオリティを高めるために進行段取りを確認し、本番で問題がないように確認する。		
9	前期終了音楽ライブ 本番		実習施設にてライブを開催する。また、ライブの完成度を評価とする。		
10	卒業音楽ライブの企画立案		テーマ・コンセプト・目的・内容・ターゲットの設定と企画書作成の実習		
11	広報・動員計画と実施内容		卒業ライブへの広報および動員計画の作成実習		
12	技術打合せ		音響・照明との打合せ。それぞれの関係性を講義。		
13	卒業音楽ライブ 実施準備		ライブハウスの押さえる(日時確定)、演出や衣装、小道具を揃える。ステージングの練習など		
14	リハーサルステージ I		卒業ライブのリハーサルを繰り返し、問題があれば修正、クオリティを高める。		
15	リハーサルステージ II		卒業ライブのリハーサルを繰り返し、問題があれば修正、クオリティを高める。		
16	音楽ライブに向けてのリハーサル		リハーサル時に最終チェックを行う。		
17	音楽ライブ実施		ライブハウスにてライブを開催する。		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
前期ライブ25%、卒業ライブ35%、企画書20%、学習意欲20%  成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。			実習授業であり、教わることより自身で考えて行動することが重要である。また、外部(ライブハウス・音響・照明など)との連携が発生するために、コミュニケーション能力が問われる。		
実務経験教員の経歴	放送・音楽業界の現場に7年、専門学校にて23年の指導、MBAホルダー				

②

国際映像メディア専門学校 シラバス

科目名	声優トレーニング				
担当教員	鈴木 則子		実務授業の有無	○	
対象学科	声優アクターズ科 声優アーティストコース	対象学年	2	開講時期	前期・後期
必修・選択	必修	単位数	一	単位時間数	17時間
授業概要、目的、授業の進め方	1. 日々行えるトレーニング法を指導。 2. 呼吸と発声についての基礎的知識を認識させ、正しい発声に役立てる。 3. イントネーション・プロミネンス・ポーズの基礎理解により、表現力を養う。				
学習目標 (到達目標)	1. 役者として持久力のある発声を身につける。 2. 苦手な行の滑舌の克服と強化。 3. 声量やブレス数を調整しつつ語ることができる 4. 長文も滑舌良く読むことができる。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	講師作成資料				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	トレーニング 発声・滑舌		実習 トレーニング 発声練習(長音、トレーニングを加えた発声)		
2	トレーニング 発声・滑舌		実習 トレーニング 発声練習(長音、トレーニングを加えた発声)		
3	トレーニング 発声・滑舌		実習 トレーニング 発声・滑舌練習(サ行・ザ行強化)		
4	トレーニング 発声・滑舌		実習 トレーニング 発声・滑舌練習(サ行・ザ行強化)		
5	トレーニング 発声・滑舌		実習 トレーニング 発声・滑舌練習(ダ行・ラ行強化)		
6	トレーニング 発声・滑舌		実習 トレーニング 発声・滑舌練習(ダ行・ラ行強化)		
7	トレーニング 発声・滑舌		実習 トレーニング 発声・滑舌練習(ナ行・マ行強化)		
8	トレーニング 発声・滑舌		実習 トレーニング 発声・滑舌練習(ナ行・マ行強化)		
9	実技テスト		実技テスト		
10	発声・滑舌		発声・滑舌練習(動きを加えての外郎売練習)		
11	発声・滑舌		発声・滑舌練習(動きを加えての外郎売練習)		
12	長文訓練		長文練習「暑い日に熱い鍋」		
13	長文訓練		長文練習「暑い日に熱い鍋」		
14	長文訓練		長文練習「真田のサラダの皿だ」		
15	長文訓練		長文練習「真田のサラダの皿だ」		
16	長文訓練		長文練習「固い方高い方」		
17	実技テスト		実技テスト		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
定期試験(発表)40%、基礎力30%、学習意欲30%  成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。			声の仕事に対応できるだけの体力と、発声・滑舌を磨く。 ただし、授業で学べることはやり方であって、積み重ねが必要。 日々、自主的に意識し練習することによって成長につながる。		
実務経験教員の経歴	演技者・ナレーターとして10年以上経験を積む				

②

国際映像メディア専門学校 シラバス

科目名	ヴォーカル実技				
担当教員	石田 耀子		実務授業の有無	○	
対象学科	声優アクターズ科 声優アーティストコース	対象学年	1	開講時期	前期・後期
必修・選択	必修	単位数	一	単位時間数	17時間
授業概要、目的、授業の進め方	1. 声の通る道を意識しながら発声する 2. 1音1音に響きをつける 3. たくさんの曲の中から自分に合った曲を選ぶ				
学習目標 (到達目標)	自分のキーに合った選曲ができる。 歌いやすくなる。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	プリント配布				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	発声、呼吸		基本的な声楽のレッスン		
2	発声、呼吸		基本的な声楽のレッスン		
3	発声、呼吸、声出し		基本的な声楽のレッスン		
4	発声、課題曲の選曲・歌唱		歌唱による指導		
5	発声、課題曲の選曲・歌唱		歌唱による指導		
6	発声、課題曲の選曲・歌唱		歌唱による指導		
7	発声、自由曲の選曲・歌唱		歌唱による指導		
8	発声、自由曲の選曲・歌唱		歌唱による指導		
9	発声、自由曲の選曲・歌唱		歌唱による指導		
10	発声、自由曲の選曲・歌唱、マイクの使い方		歌唱による指導+ステージングの基礎知識		
11	発声、自由曲の選曲・歌唱、マイクの使い方、現場での立ち振る舞い		歌唱による指導+ステージングの基礎知識		
12	発声、自由曲の選曲・歌唱、マイクの使い方、現場での立ち振る舞い、ステージパフォーマンス		歌唱による指導+ステージングの基礎知識		
13	発声、自分に合った1曲を決定		ステージ歌唱の決定および本番に向けての指導		
14	発声、自分に合った1曲を決定		ステージ歌唱の決定および本番に向けての指導		
15	発声、自分に合った1曲を決定		ステージ歌唱の決定および本番に向けての指導		
16	発声、自分に合った1曲を決定		ステージ歌唱の決定および本番に向けての指導		
17	ステージで発表		試験		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
試験40%、授業による上達度30%、学習意欲30%  成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。			歌唱力向上以上にステージ表現を学んで下さい。自主練習は必修です。学んだ基本的発声は毎日行って下さい。		
実務経験教員の経歴	アニソンシンガーとしてキャリア25年以上				

②

国際映像メディア専門学校 シラバス

科目名	ヴォーカル実技					
担当教員	石田 耀子		実務授業の有無	○		
対象学科	声優アクターズ科 声優アーティストコース		対象学年	2	開講時期	前期・後期
必修・選択	必修	単位数	一	単位時間数	17時間	
授業概要、目的、授業の進め方	1. 1音1音に響きをつける 2. 自分の声のいいところ、悪いところを知る 3. ステージパフォーマンス					
学習目標 (到達目標)	歌い方、ニュアンスのつけ方の引き出しを増やし、幅を広げる。					
テキスト・教材・参考図書・その他資料	プリント配布					
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考			
1	発声、呼吸、声出し		基本的な歌唱トレーニング			
2	発声、呼吸、声出し、課題曲歌唱1C		基本的な歌唱トレーニング+歌唱指導			
3	発声、呼吸、声出し、課題曲歌唱1C		基本的な歌唱トレーニング+歌唱指導			
4	発声、呼吸、声出し、課題曲歌唱1C		基本的な歌唱トレーニング+歌唱指導			
5	発声、課題曲フル、高音の出し方		歌唱テクニック			
6	発声、課題曲フル、高音の出し方、アクセント、リズム		歌唱テクニック			
7	発声、課題曲フル、高音の出し方、アクセント、リズム		歌唱テクニック			
8	発声、課題曲フル、高音の出し方、アクセント、リズム		歌唱テクニック			
9	課題曲仕上げ		前期試験として歌唱発表			
10	発声、自由曲の選曲・歌唱		歌唱指導			
11	発声、自由曲の選曲・歌唱、ニュアンスのつけ方		歌唱指導			
12	発声、自由曲の選曲・歌唱、ニュアンスのつけ方、パフォーマンス		歌唱指導+ステージング			
13	発声、自由曲の選曲・歌唱、ニュアンスのつけ方、パフォーマンス		歌唱指導+ステージング			
14	発声、自由曲の選曲・歌唱、ニュアンスのつけ方、パフォーマンス		歌唱指導+ステージング			
15	がたフェス リハーサル		発表本番に向けての準備			
16	がたフェス リハーサル		発表本番に向けての準備			
17	がたフェス 本番		試験を兼ねた発表会			
評価方法・成績評価基準			履修上の注意			
定期試験40%、レポート25%、実技試験25%、学習意欲10%  成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。			がたフェスイベントにおいて観客の前に歌唱をします。歌唱上達もそうですが、プロとしての姿勢も学んで下さい。			
実務経験教員の経歴	アニソンシンガーとしてキャリア25年以上					

②

国際映像メディア専門学校 シラバス

科目名	HIP HOP II				
担当教員	MIE (中野 美恵)		実務授業の有無	○	
対象学科	声優アクターズ科 声優アーティストコース	対象学年	2	開講時期	前期・後期
必修・選択	必修	単位数	一	単位時間数	34時間
授業概要、目的、授業の進め方	1. 正しい姿勢で舞台に映える動きを身につける。 2. アイソレーションが正しくできるようにする。 3. リズムキープに表現力がプラスされたダンスができるようにする。				
学習目標 (到達目標)	1. 舞台上で使えるアイソレーションをマスターし、ボディコントロールできるようになる。2. 振り付けられた内容の中で、個々の表現を取り入れながら踊れるようにする。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	なし				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	ストレッチ、アイソレーション、リズムトレーニング		1年次の復習。		
2	ストレッチ、アイソレーション、振り付け		HipHopとJAZZを取り入れたダンス課題。振り付け。		
3	ストレッチ、アイソレーション、振り付け		HipHopとJAZZを取り入れたダンス課題。振り付け。		
4	ストレッチ、アイソレーション、振り付け		HipHopとJAZZを取り入れたダンス課題。振り付け。		
5	ストレッチ、アイソレーション、振り付け		HipHopとJAZZを取り入れたダンス課題。グループでのフォーメーション練習。		
6	ストレッチ、アイソレーション、振り付け		HipHopとJAZZを取り入れたダンス課題。グループでのフォーメーション練習。		
7	ストレッチ、アイソレーション、振り付けチェック		HipHopとJAZZを取り入れたダンス課題。チェック。		
8	ストレッチ、アイソレーション、振り付けチェック		HipHopとJAZZを取り入れたダンス課題。チェック。		
9	課題発表		グループ発表。		
10	ストレッチ、アイソレーション、リズムトレーニング		前期の復習。		
11	ストレッチ、アイソレーション、振り付け		HipHopとJAZZのアップテンポ課題。振り付け。		
12	ストレッチ、アイソレーション、振り付け		HipHopとJAZZのアップテンポ課題。振り付け。		
13	ストレッチ、アイソレーション、振り付け		HipHopとJAZZのアップテンポ課題。グループでのフォーメーション練習。		
14	ストレッチ、アイソレーション、振り付け		HipHopとJAZZのアップテンポ課題。グループでのフォーメーション練習。		
15	ストレッチ、アイソレーション、振り付けチェック		HipHopとJAZZのアップテンポ課題。チェック。		
16	ストレッチ、アイソレーション、振り付けチェック		HipHopとJAZZのアップテンポ課題。チェック。		
17	課題発表		グループ発表。		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
試験(発表)30%、基礎力30%、学習意欲20%、積極性20%  成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。			進行状況に合わせながら振り付けも変えていく。身体的リズム感を養うためには自主練習も必要。発表のタイミングを設け、精度を高めていく予定。		
実務経験教員の経歴	HipHopダンサーとして15年以上活躍。アイドルの振り付けも行う。				

②

国際映像メディア専門学校 シラバス

科目名	人狼メソッド				
担当教員	安川 嘉文		実務授業の有無	○	
対象学科	声優アクターズ科 声優アーティストコース	対象学年	1	開講時期	前期・後期
必修・選択	必修	単位数	一	単位時間数	17時間
授業概要、目的、 授業の進め方	1. 人狼ゲームを用いた人狼メソッドを習得 2. インプロの理解とインプロスキルの強化 3. グループワークで創作発表できる				
学習目標 (到達目標)	人狼TLPT監修のもと、人狼ゲームを用いた人狼メソッドで演技力の向上を目指す。ゲーム性を取り入れることで自身の演技スイッチを自覚し、インプロで演技交換ができるようになる。観客を意識したグループ発表ができる。				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料	人狼TLPT教材				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	インプロワークス1		イントロダクション・インプロとは何か・なぜインプロが必要か		
2	インプロワークス2		インプロの基礎・イエスアンドの説明		
3	人前で喋る1		ディベート(1VS2)		
4	人前で喋る2		ディベート(1VS観客)		
5	インプロゲーム1		イエスアンド・イエスアンドイェー		
6	インプロゲーム2		水とミルク		
7	インプロゲーム3		ワードウルフ(グループワーク)		
8	インプロゲーム4		ワードウルフ(グループワーク)		
9	インプロゲーム5		ワードウルフ(発表)		
10	人狼メソッド1		人狼メソッドの説明		
11	人狼メソッド2		関係性なしでチーム分けをして人狼ゲーム		
12	人狼メソッド3		人狼ゲーム(全員喋る、割り込む)		
13	人狼メソッド4		人狼ゲーム(簡易関係性をつくる)		
14	人狼メソッド5		人狼ゲーム(関係性をアドリブでつくる)		
15	人狼メソッド6		人狼ゲーム(死に対するリアクション、遺言、感想タイム)		
16	人狼メソッド7		人狼メソッドを用いた人狼ゲーム(グループワーク)		
17	人狼メソッド8		人狼メソッドを用いた人狼ゲーム(発表)		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
定期試験40%、レポート25%、実技試験25%、学習意欲10%  成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。			出席は大前提。積極性、参加意欲を重視します。		
実務経験教員の経歴	芸能活動15年以上、専門学校にて演技指導歴6年				

②

国際映像メディア専門学校 シラバス

科目名	クラシックバレエ				
担当教員	内堀 照子		実務授業の有無	○	
対象学科	声優アクターズ科 声優アーティストコース	対象学年	2	開講時期	前期・後期
必修・選択	必修	単位数	一	単位時間数	17時間
授業概要、目的、 授業の進め方	1. バレエの基礎を学ぶことにより、表現者としての美しい立ち方、動きを磨く。 2. ミュージカルにも対応できる人材を育成する。				
学習目標 (到達目標)	1. 基本姿勢を身につける。 2. 体を自由に動かし演技ができる。 3. 音楽に合わせて踊ることができる。				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料	バレエシューズ				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	基本姿勢		立ち方確認。姿勢矯正		
2	スキップ シャッセ		姿勢を保ちながら、スキップ、シャッセ		
3	ステップ		シャッセ、パ・ド・プレ		
4	パーレッシン		ブリエ、タンジュ、ソテー、ジュッテ、パッセ		
5	パーレッシン		前回までの復習。ロンデジャンプ		
6	パーレッシン		前回の復習。フォンジュ		
7	パーレッシン		前回の復習。バットマン、グランドバットマン		
8	センターレッシン		前回の復習。バーなしでのタンジュ		
9	センターレッシン		前回の復習。ピルエット		
10	センターレッシン		前回の復習。ワルツ		
11	センターレッシン		前回の復習。ジャンプ		
12	センターレッシン		前回の復習。アレグロジャンプ		
13	センターレッシン		前回の復習。グランジャンプ		
14	センターレッシン		組み合わせ練習1		
15	センターレッシン		組み合わせ練習2		
16	センターレッシン		組み合わせ練習3。課題練習		
17	課題発表		課題発表		
評価方法・成績評価基準		履修上の注意			
試験(発表)30%、基礎力30%、学習意欲20%、積極性20%  成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D 評価を不可とする。		バレエの基礎を、表現者としての姿勢や演じる際の身体の動きに 活かすことを目的としている。積み重ねによって修得できるもの なので、自主練習をし、日常生活でも身体の動きを意識してほしい。			
実務経験教員の経歴	バレエ教室代表、ミュージカル振付師として、30年以上の経験を持つ				

科目名	メディアマスコミ基礎学				
担当教員	朝倉 隆司		実務授業の有無	○	
対象学科	声優アクターズ科 声優アーティストコース	対象学年	1	開講時期	前期・後期
必修・選択	必修	単位数	一	単位時間数	17時間
授業概要、目的、授業の進め方	1. メディア・マスコミ業界の仕組みや内容を理解する。 2. イベント・ラジオ・テレビ業界で働くための基礎知識習得を行う。 3. 各業界の仕組み、企画から発信までの流れ、簡単な歴史などを学ぶ。				
学習目標 (到達目標)	1. イベントの基本的な事柄を説明できる。2. ラジオ・テレビの基本的な制作工程が説明できる。3. マスコミで仕事をする上で基本的な考え方や関係性を理解している。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	配布資料ほか				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	マスコミの基本的存在意義		メディア=仲介の役割 人と出来事を結ぶ存在		
2	新聞(報道)メディアの基礎 I		5W1Hで報道は伝えられる。ネットの速報性に対して新聞は記録性にある。人権尊重の意識など		
3	新聞(報道)メディアの基礎 II		価値ある報道とは? 新奇性・人間性・普通性・社会性・影響力・記録性・国際性・地域性など		
4	報道記事の作成		身近で起こった出来事を5W1Hに当てはめて記事を作成し、発表する。		
5	イベントの基礎 I		セールスプロモーションとパブリックリレーションズの違い。イベント企画から実施、効果測定までの流れ。		
6	イベントの基礎 II		宣伝と動員の違い。開催時期や会場決定について。アンケート集計によるマーケティングについて。		
7	イベントMC・司会について		進行と仕切りを任されているMCの本当の役割について。実習(台本をもとにMCを行う)		
8	ラジオCMの基礎		20秒に何をどう伝えるか。音だけで消費行動を起こす。実習(CMを作成)		
9	テレビCMの基礎		15秒に何をどう伝えるか。情報CMとイメージCMの違い。CM企画から実施までの流れ。		
10	ラジオ番組制作の基礎		CUEシートの作成、選曲、BGM、トーク内容などの各パートの説明		
11	ラジオ番組制作の実習		自身で作成したCUEシートをもとに模擬ラジオ番組の制作を実施する。		
12	ラジオパーソナリティーについて		音楽に関する知識、ラジオトークの特徴、楽曲紹介の方法など。		
13	テレビ番組制作の基礎 I		企画、台本作成、取材、放送までの流れ		
14	テレビ番組制作の基礎 II		撮影、編集、MAの基本的知識		
15	アナウンサーについて		リードニュース、実況、番組進行の違い。アナウンサーの役割と技能など。		
16	その他のメディアについて		特にアプリ、インスタグラム、Youtubeなど新しいネットメディアに特化する。		
17	メディア(マスコミ)に関する将来展望		授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと。		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
定期試験40%、レポート25%、実技試験25%、学習意欲10%  成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。			インターンシップなどで現場に出た際、非常に重要な知識となります。よりビジネス意識を持って受講すること。		
実務経験教員の経歴	放送・音楽業界の現場に7年、専門学校にて23年の指導、MBAホルダー				





科目名		ビジネス著作権BASIC			
担当教員	朝倉 隆司		実務授業の有無	×	
対象学科	声優アクターズ科 声優アーティストコース	対象学年	2	開講時期	前期・後期
必修・選択	必修	単位数	一	単位時間数	17時間
授業概要、目的、 授業の進め方	1. 著作権の基本的知識習得を行う。 2. 前期、教科書中心に授業を行い、後期は問題集で知識習得の確認を繰り返す。 3. 実際の判決例などを取り入れ、より著作権が身近なものである工夫を行う。				
学習目標 (到達目標)	1. 著作権の基本的知識が理解出来る。2. ビジネス著作権BASIC合格を目指す。				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料	ビジネス著作権検定公式テキスト(ウイネット) ビジネス著作権検定初級問題集(サーティファイ)				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	著作権とは何か		イントロダクション・著作権の性質・著作権法の目的		
2	著作権で保護されるもの		著作物の定期・著作物該当性に関するその他の問題点 著作物の例示・特別な著作物 教科書P1～P19		
3	著作権は誰が持つ		著作者の定義・著作者の例外・著作者と著作権者 教科書P23～29		
4	著作権の内容 1		著作権の内容・著作者人格権・公表権・氏名表示権・同一性保持権・一身専属性 教科書P31～P41		
5	著作権の内容 2		財産権の内容・複製権・上演権及び演奏権、上映権・公衆送信権・貸与権、譲渡権、二次的著作権 教科書P43～P59		
6	著作権は誰が持ついつまで保護される		著作権の始期・著作権の保護期間・国際的保護 教科書P63～P69		
7	他人の著作物は勝手に使えない		著作権の譲渡・利用許諾・契約 教科書P73～P77		
8	勝手に使える場合がある		権利制限規定・私的使用・不随的著作物・教育・図書・非営利無償の上演、演奏・引用転載 教科書P83～P101		
9	著作物を伝達する者を保護する制度		著作隣接権(実演家)(レコード製作者)(放送事業者・有線放送事業者)・隣接権保護期間 教科書P117～P129		
10	勝手に使うとどうなるか		著作権の侵害・みなし侵害・著作権侵害罪・民事的対策 教科書P133～P145		
11	著作権に関する関連制度		知的財産権制度・情報モラルと著作権 教科書P149～P155		
12	産業財産権とは		特許権・実用新案権・意匠権・商標権 プリント配布		
13	ビジネスと法・著作物に関する基礎知識・著作者とは		問題集P8～P17 確認テストおよび解答・解説		
14	著作者の権利・著作隣接権・著作権を無断で利用できる例外		問題集P18～P32 確認テストおよび解答・解説		
15	著作権の変動・著作権の侵害と権利救済・著作権法とその周辺		問題集P33～P40 確認テストおよび解答・解説		
16	模擬試験(過去問題より重要部分を出題)		答え合わせおよび解説		
17	ビジネス著作権BASIC検定試験		直前に模擬テストおよび解説あり。		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
検定合格40%、模擬試験30%、確認テスト合計点20%、学習意欲10%  成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。			出席日数および授業態度次第では検定受験不可とする。検定合格を目指すことはもちろんですが、芸能ビジネスでは重要な知識となるので、しっかりと理解に努めること。		
実務経験教員の経歴	放送・音楽業界の現場に7年、専門学校にて23年の指導、MBAホルダー				

科目名		演技理論			
担当教員	矢頭 勲		実務授業の有無	○	
対象学科	声優アクターズ科 声優アーティストコース	対象学年	2	開講時期	前期・後期
必修・選択	必修	単位数	一	単位時間数	17時間
授業概要、目的、授業の進め方	1. 演劇等実技の中で、気を付けて学ぶべきポイントを考えてみる 2. 芸能分野を生理的に考え、人間の反応について学ぶ 3. 集団や複数の人格による会話を多面的に捉える				
学習目標 (到達目標)	一つのセリフを状況や時間、性格や生活環境・価値観、年寄・子供など多面的に表現できること				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	資料は、必要に応じてコピーにて配布				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	芸用生理学	情景に立つ1	芝居の世界を想像し、自分をその世界に立たせてみる意識		
2	芸用生理学	情景に立つ2	無い物が見えてくる、見えない空間を感じる中で、会話する。		
3	芸用生理学	行動のサイクル1	意識(発想)→想像(思考)→行動(エネルギー)→反応(影響)→誰かの意識		
4	芸用生理学	行動のサイクル2	台本理解にも繋がっていく、役の生理について考える。		
5	芸用生理学	外郭的反応・内面的衝動1	型から学ぶ⇔内面から捉える		
6	芸用生理学	外郭的反応・内面的衝動2	感情の流れを抑圧的に導く例を探る。 心に響く例をだし、感情を探る。		
7	芸用生理学	発見と想像1 記憶からの発想	創造力を記憶から生み出すと考えたとき、記憶の多くは、自身の感動の積み重ねとして捉えてみる。		
8	芸用生理学	発見と想像2 選択する過程	発想力を生み出す感動。いくつもの記憶から、発見をきっかけに紡がれるアイデア。無数の記憶から選ぶ作業について		
9	芸用生理学	まとめ	行動のサイクルを再認識		
10	台本理解	行間を読む1	台詞と台詞の相互理解を意識する。		
11	台本理解	行間を読む2	見えない情景を感じ取り、台詞の繋がりを考える。		
12	台本理解	キャラクターを考える1	役の関係性を理解する		
13	台本理解	キャラクターを考える2	役について、その役の歴史を自分の経験と置き換えてみる		
14	台本理解	作者のねらいを考える1	本を書く側の想いについて		
15	台本理解	作者のねらいを考える2	本を読む側に起こるであろう反応・影響を考える		
16	台本理解	作者のねらいを考える3	台本の中の登場人物たちの台詞は、作者の言葉でもある		
17	台本理解	まとめ	作者の想いを感じながら台本を理解する		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
定期試験40%、レポート25%、実技試験25%、学習意欲10%  成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。			演技を思考する。客観視しながら状況や過程を鑑みての感情と、物語の登場人物となって内面から湧き上がる感情。そのどちらも、より効果的な手法として捉え、丁寧に行ってほしい。感覚的だけでなく、時には、抑圧的に起こった反応なのか、性格による衝動なのか、またその両方が混ざり合っている場合も考え、演技表現の幅を持つことへと繋げてほしい。		
実務経験教員の経歴	舞台演劇活動歴30年以上、 舞台演出・舞台監督・演技指導歴15年				

科目名		実践行動学			
担当教員	朝倉隆司		実務授業の有無	×	
対象学科	声優アクターズ科 声優アーティストコース	対象学年	1	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位数	—	単位時間数	18時間
授業概要、目的、 授業の進め方	1. 前期1回、後期2回実施 2. 人間力（自主性・プラス思考・実行力など）の育成 3. Part1～Part3を毎回グループに分かれて実施				
学習目標 (到達目標)	将来に対する目標設定・プラス思考・働くことへのモチベーション向上				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料	実践行動学テキスト配布 実践行動学研究所				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	Part1 マジックドア1		夢と目標 P1～P7		
2	Part1 マジックドア2		誤った思い込みと言い訳 P8～P13		
3	Part1 マジックドア3		行動のよりどころと心構え P14～P22		
4	Part1 マジックドア4		まず第1歩を P23～P32		
5	Part1 マジックドア5		目標設定しよう P33～P38		
6	Step Up Sheet		目標設定達成の振り返り P39～P42		
7	Part2 マジックドア1		プラス思考が自分の能力・可能性を大きく広げる P1～P4		
8	Part2 マジックドア2		考え方を変えれば行動が変わる P5～P11		
9	Part2 マジックドア3		あなたの問題は、あなたが解決できる P12～P19		
10	Part2 マジックドア4		あなたのコミュニケーションスタイルを見直そう P20～P27		
11	Part2 マジックドア5		目標が才能・可能性を開花させる P28～P32		
12	Step Up Sheet		目標設定達成の振り返り P34～P36		
13	Part3 マジックドア1		入学から今日までの成長を実感しよう P1～P4		
14	Part3 マジックドア2		働く自分をイメージしてみよう P5～P10		
15	Part3 マジックドア3		自分が最大限に生きる働き方とは P11～P15		
16	Part3 マジックドア4		将来を描いてみよう P16～P20		
17	Part3 マジックドア5		夢実現への第一歩を踏み出そう P21～P24		
18	Step Up Sheet		夢実現整理・行動計画の振り返り P25～P28		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
積極的取り組み40%、発表内容30%、リーダーシップ30%、 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・ D評価を不可とする。			講師はあくまでも授業の進行役（ファシリテーター）でしかあり ません。ファシリテーターの指示に従い、グループで授業を進め て下さい。		
実務経験教員の経歴	放送・音楽業界の現場に7年、専門学校にて23年の指導、実践行動学ファシリテーター資格有				







